

大阪大学総合学術博物館 年報 2022

大阪大学総合学術博物館
The Museum of Osaka University

大阪大学総合学術博物館
年報 2022

はじめに

皆さん、はじめまして。今年度（2023 年度）から永田靖先生より大阪大学総合学術博物館長を引き継がせていただきました大学院基礎工学研究科の河原源太と申します。私の専門分野は熱流体力学であり、自身の専門を活かして総合学術博物館の活動に直接携わる機会は必ずしも多くないと存じますが、主に管理運営面で博物館の益々の発展に向け微力を尽くす所存です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

さて、昨年度（2022 年度）の博物館の活動概要『大阪大学総合学術博物館年報 2022』をここに刊行し、ご報告申し上げます。昨年度は、2002 年に創立された本学博物館にとって 20 周年を迎えた節目の年度でした。また、新型コロナウイルスの感染が段階的に収まり、コロナ禍前に実施していた対面での諸活動を徐々に再開できた年度でもありました。創立以来博物館にご支援を賜りました学内外の皆様、またコロナ禍での博物館の諸活動にご協力下さった関係者の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

昨年度には本博物館の常設展に加え、3 回の展覧会を対面にて開催し、多くの方々にご来館いただきました。2022 年 4 月から 7 月には、第 16 回特別展「モダン中之島コレクション “大大阪” 時代の文化芸術発信センター」を開催しました。この特別展では、かつて日本最大、世界第 6 位を誇った“大大阪”時代を中心に中之島が文化芸術に果たした役割を取り上げました。また、2022 年 10 月から 12 月には第 17 回特別展「MOU 収蔵品展－創立からもう 20 年」を開催しました。博物館創立以来 20 年間に亘り蓄積してきました膨大な学術資料の中から、未公開の寄贈、寄託資料を中心に公開しました。さらに、2023 年 1 月から 3 月には、展覧会「くるまいすで GO ! どうする★バリバリア」を開催し、現代美術家の檜皮一彦氏が実践する“walking practice”、すなわち来館者が車いすを使い展示室を閲覧するユニークな疑似体験を提供しました。

今後はコロナ禍を乗り越えて従前の博物館の活動を再開するとともに、これまで以上に充実させるべく努力して参りたいと存じます。また、今年度には社会の皆様と大阪大学との連携事業をより総合的、全学的に展開するため、大阪大学ミュージアム・リンクスを創設し、本学の社会学連携を推進する総合学術博物館、適塾記念センター、アーカイブズの 3 組織の専任教員がミュージアム・リンクスに結集しました。今年度以降、このミュージアム・リンクスに集う、幅広い専門領域をカバーするメンバーとともに、博物館としてこれまでにない新たな取組にも挑戦して参りたいと存じます。どうか今まで以上のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2024 年 2 月

大阪大学総合学術博物館長
河原 源太

目 次

1. 展覧会報告Ⅰ	5
大阪大学総合学術博物館第16回特別展 モダン中之島コレクション “大大阪”時代の文化芸術発信センター	
・ 概要	6
・ 報告（大阪大学総合学術博物館 教授 橋爪 節也）	9
2. 展覧会報告Ⅱ	15
大阪大学総合学術博物館（MOU）創立20周年記念展 「地域に生き世界に伸びる MOU 収蔵品展－創立からもう20年－」	
・ 概要	16
・ 報告（大阪大学総合学術博物館 講師 伊藤 謙）	20
3. 展覧会報告Ⅲ	25
大阪大学総合学術博物館特別展 「くるまいすでGO！ どうする★バリバリア」	
・ 概要	26
・ 報告（大阪大学大学院人文学研究科 特任助教（常勤） 山崎 達哉）	29
4. サイエンスカフェ	33
・ 2022年度（サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館／@オンライン No.167～171）	35
5. 豊中市立小中学生 理科展 サテライト展示	37
6. 教員活動報告	41
総合学術博物館 館 長 永田 靖	42
総合学術博物館 研究・教育部	
・ 資料基礎研究系 准教授 辻野 博文	45
・ 資料先端研究系 教授 上田 貴洋	50
准教授 豊田 二郎	53
准教授 宮久保圭祐	54
・ 資料情報研究系 教授 橋爪 節也	55
助 教 横田 洋	60
総合学術博物館 資料部	
講 師 伊藤 謙	62

7. 資料	63
・ 2022 年度の主な活動一覧	64
・ 入館者数集計結果一覧	66
・ 団体見学一覧	67
・ 関連記事一覧	68
・ 寄贈図書一覧	69
・ 館内配置図	73

1. 展覧会報告 I

大阪大学総合学術博物館第 16 回特別展

モダン中之島コレクション

“大大阪”時代の文化芸術発信センター

概 要

大阪大学総合学術博物館 第16回特別展「モダン中之島コレクション “大大阪”時代の文化芸術発信センター」を2022年4月28日(木)から7月30日(土)の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

大阪中之島は、江戸時代に蔵屋敷が並んだ「天下の台所」を象徴する土地であり、近代に入ると大阪市中央公会堂や大阪市庁舎が完成し、金融機関、新聞社、図書館、ホール、ホテルが集積したシビックセンターとして発展した。そして現代。中之島は、大阪中之島美術館の開館により世界的にもユニークな“美術館島”として文化的な性格を強め、2023年には大阪大学中之島センター内に芸術系の拠点として「大阪大学中之島芸術センター」が新設された。これらの動きをふまえ、本展覧会では中之島が文化芸術に果たした役割を振り返った。本展覧会中の期間中の来場者は、3,792名であった。

大阪大学総合学術博物館 第16回特別展

テーマ：「モダン中之島コレクション “大大阪”時代の文化芸術発信センター」

期 間：2022年4月28日(木)～7月30日(土)

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階多目的ルーム セミナー室

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学大学院工学研究科

協 力：大阪市中央公会堂、大阪歴史博物館、大阪くらしの今昔館、株式会社竹中工務店、株式会社ロイヤルホテル、大阪大学医学部医学史料展示室

後 援：関西経済同友会

入館者数：3,792名

<シンポジウム>

6月25日(土)

「歴史の可能性を可視化する―再現される大阪市中央公会堂コンペ案」

橋爪 節也(大阪大学総合学術博物館・教授)

船越 幹央(大阪歴史博物館・学芸員)

木多 道宏(大阪大学大学院工学研究科・教授)

波瀬山祥子(大阪大学総合学術博物館・研究支援推進員)

参加者数：90名

<ミュージアムレクチャー>

7月2日(土)

「中之島に開花した近代建築」

阿部 文和(大阪歴史博物館・学芸員)

参加者数：21名

7月23日(土)

「中之島を楽しもう」

福田 知弘(大阪大学大学院工学研究科・准教授)

参加人数：12名

入館
無料

大阪大学総合学術博物館 第16回特別展

モダン 中之島

“大大阪”時代の文化
芸術発信センター

コレクション

絵画、写真、ポスター、建築、橋梁……
きらめく中之島のヴィジュアルを集めました

2022

4/28 (木) ▶ 7/30 (土)

大阪大学総合学術博物館
待兼山修学館

10:30~16:30

入館は 16:00 まで

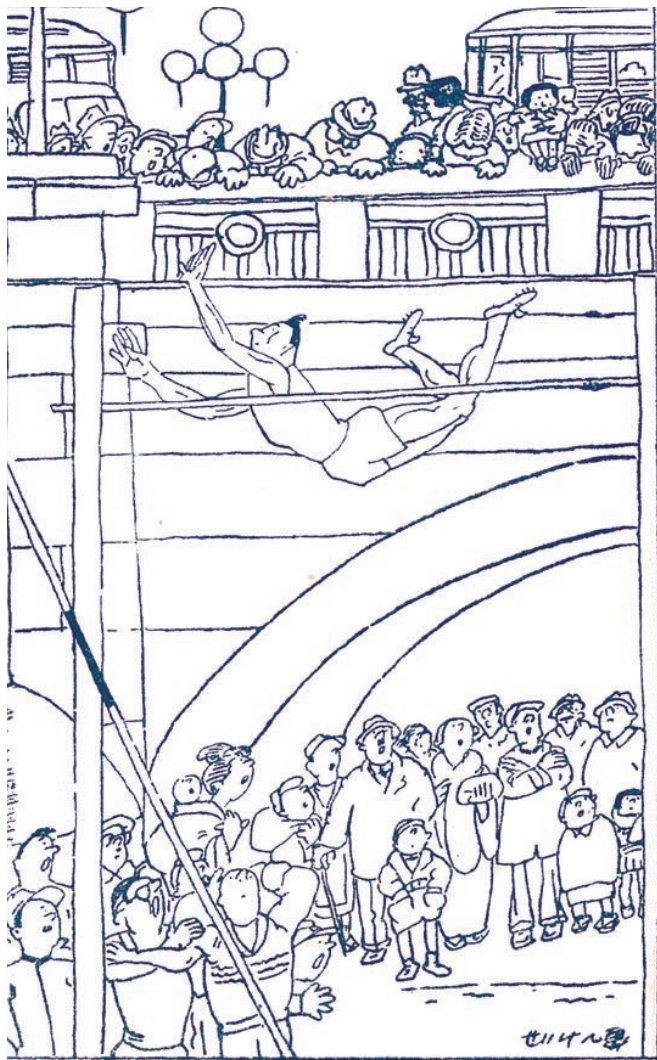
日・祝日休館

主催 大阪大学総合学術博物館
共催 大阪大学大学院人文科学研究科
大阪大学大学院工学研究科
協力 大阪市中央公会堂、大阪歴史博物館
大阪くらしの今昔館、株式会社竹中工務店
株式会社ロイヤルホテル
大阪大学医学部医学史料展示室
後援 関西経済同友会

【右】藤井厚二「大阪朝日新聞社建築図面 時計塔・文字盤」1910年代 株式会社竹中工務店蔵
【左】「OSAKA VIEWS 大阪風景を綴めて」写真葉書袋絵より難波橋・ライオン像
大正寫眞工藝所 大正～昭和初期 個人蔵

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催日程・休館日・
開館時間・イベントが変更になる場合があります。ご来館前
に当館ホームページで最新情報をご確認ください。





- ① 藤原せいけん「今の中之島公園」『大阪叢書 北濱界隈 中の島界隈』1928年 個人蔵
 ② 初代長谷川貞信「浪花百景」より「たこの松」大阪大学総合学術博物館蔵
 ③ 雑誌『會館藝術』Vol.2, No.4 朝日会館発行 1933年 個人蔵
 ④ 武田五一「大阪市公会堂新築設計図 透視図」紙本・インク・着色 1912年 大阪市蔵
 ⑤ 安井曾太郎「薔薇」油彩・カンヴァス 1934年 株式会社ロイヤルホテル蔵

関連イベント

シンポジウム

歴史の可能性を可視化する

- 再現される大阪市中央公会堂コンペ案

日時 6月25日(土) 13:00~16:30

会場 大阪市中央公会堂 3階 中集会室

そのほかミュージアムレクチャーも開催予定

※イベントの詳細・申込方法は当館ホームページをご覧ください

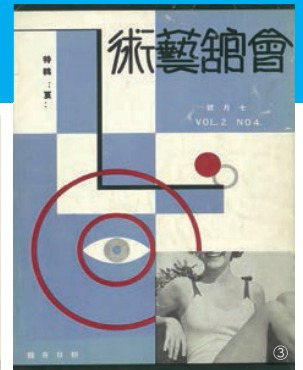


大阪・中之島は、江戸時代には蔵屋敷が並び、近代には大阪市庁舎をはじめ、新聞社、図書館、ホール、ホテルが集積した**シヴィック・センター（Civic Center）**として発展しました。

戦後も、フェスティバルホールや具体美術協会の「グタイピナコテカ」の開館など、大阪の文化芸術の中心地であり、いまでも重要文化財に指定されている大阪市中央公会堂や大江橋・淀屋橋を中心に、地域全体を美術館に見立てた“エコ・ミュージアム”として機能しています。

本年の大阪中之島美術館の開館は、この地域をさらに新しい文化ゾーンへと変貌させ、**世界的にもユニークな“美術館島”**としての性格を強めることになりましたが、大阪大学も、大阪大学中之島センターを改修して美学、美術史、演劇学、音楽学、文芸学など芸術系の拠点として「大阪大学中之島アートセンター」の2023年開設の準備を進めています。

この動きを踏まえて本展では、大正14年（1925）東京市を抜いて日本最大、世界第六位となった“大大阪”時代を中心に中之島が文化芸術に果たした役割を、市庁舎のステンドグラスほか、パンフレットや絵画、ポスター、写真、地図、刊行物など、日常生活や社会に氾濫した“**イマジユリ**”（イメージ図像）を中心に再検証します。



展示内容紹介

「大阪市パノラマ地図」印刷 1923年 個人蔵

「大阪市公会堂新築設計図 透視図」原画 紙本・インク 1912年 大阪市蔵

森琴石筆「難波橋渡り初め式図（下絵）」紙本・墨画 1915年 個人蔵

「旧大阪市庁舎ステンドグラス（扇形）」1921年 大阪くらしの今昔館蔵

「大阪朝日新聞社・朝日会館・朝日ビルディング模型」株式会社竹中工務店蔵

アクセスのご案内

○ 阪急電鉄宝塚線・石橋阪大前駅より徒歩約10分

○ 大阪モノレール・柴原阪大前駅より徒歩約20分

* 公共交通機関をご利用ください

○ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、掲載内容に変更が生じる場合がございます。ホームページで最新情報をご確認ください。

○ 入館の際、マスク着用・検温・消毒をお願いしております。

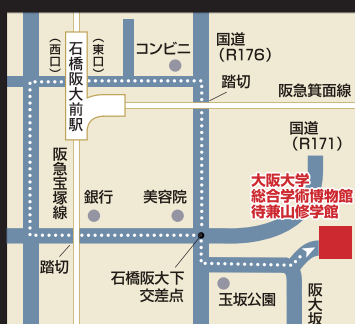
大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町 1-20

TEL: 06-6850-6284

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>



報 告

大阪大学総合学術博物館 第16回特別展

「モダン中之島コレクション “大大阪” 時代の文化芸術発信センター」

大阪大学総合学術博物館

教授 橋爪 節也

准教授 辻野 博文

研究支援推進員 波瀬山祥子

2022年4月28日(木)～7月30日(土)の3ヶ月間、「モダン中之島コレクション

“大大阪”時代の文化芸術発信センター」と題した展覧会を、大阪大学総合学術博物館待兼山修学館で開催した。

大阪中之島は、江戸時代に蔵屋敷が並んだ「天下の台所」を象徴する土地であり、近代に入ると大正7年(1918)に大阪市中心公会堂(重要文化財)、同10年に華麗なステンドグラスが嵌め込まれた大阪市庁舎が完成し、金融機関、新聞社、図書館、ホール、ホテルが集積したシビックセンター(Civic Center)として発展した。昭和37年(1962)には具体美術協会の美術館「グタイピナコテカ」が開館、昭和45年(1970)の大阪万博で「具体」メンバーはアートパフォーマンスも行っている。現代も中之島は、パブリックアートが集積し、都市全体を美術館に見立てた「エコ・ミュージアム」として機能している。

そして、2022年の大阪中之島美術館の開館は世界的にもユニークな“美術館島”として、この地域をさらに新しい文化ゾーンへと変貌させようとしており、大阪大学も大阪大学中之島センターを改修し美学、美術史、演劇学、音楽学、文芸学など芸術系の拠点として「大阪大学中之島芸術センター」が2023年4月に開設した。

こうした動きを眺めつつ、大正14年(1925)の第2次市域拡張で東京市を抜いて日本最大・世界第六位となった“大大阪”時代を中心に、文化施設関係のパンフレットや絵画、写真、地図、刊行物など、日常生活や社会に氾濫した“イマジユリイ”(イメージ図像)をもとに、中之島が文化芸術に果たした役割を3章立てて検証した。



エントランス風景



展示室入口

第1章 大阪中之島 大パノラマ―江戸・明治・大正から「大大阪」へ

大阪の街は、淀川水系に属する多くの砂州や島を開発整備することから発展した。船場をはじめ、島之内、堀江、堂島など水にちなむ地名も多い。現在も独立した島である“中之島”（大阪市北区）もまた、大阪の歴史と深く関係している。

江戸時代の中之島には、全国の諸藩が蔵屋敷を設けて年貢米や特産物が搬入集積され、対岸の堂島では米市場が活況を呈した。近代になると蔵屋敷の跡地が活用され、官庁や銀行、郵便局、図書館、学校など公共施設が建ちならび、都市機能を集約したシビックセンター（公共機関の集まる中心街）としての性格を強めていく。朝日新聞社も、江戸堀（現・大阪市西区）から中之島の旧・宇和島藩蔵屋敷に本社を移し、現在の大阪大学中之島センターも、大阪大学医学部があった広島藩蔵屋敷（本館常設に展示）の跡に建っている。

そして大正14年（1925）の第2次市域拡張で大阪市は、日本最大の都市“大大阪”となり、さらに中之島は、都市の美観を備えたモダンな空間へと変貌する。中之島公園や遊歩道が整備され、大阪市中心公会堂に加えて朝日会館などのホールや、最新設備を誇る新大阪ホテル（リーガロイヤルホテルの前身）が開業した。

この章では、幕末から近代へと変貌していく中之島の姿を、幕末の錦絵や「名所図会」などの挿絵や地図、写真をはじめ、“大大阪”成立直前に制作された「パノラマ地図」で紹介した。



明治35年頃の中之島パノラマ写真帖



大正期のパノラマ地図など

第2章 シビックセンター遊覧 ―モダン・ライフと都市施設―

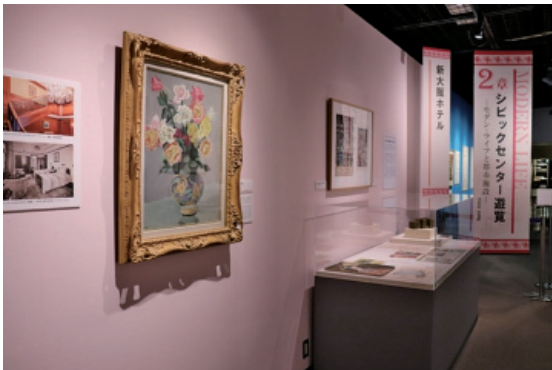
近代の中之島には壮麗な建築が建ち並んだ。明治36年（1903）に日本銀行大阪支店、明治37年に大阪図書館（現・大阪府立中之島図書館）が建設され、大正7年（1918）には、ネオ・ルネサンス様式を基調にセセッション様式も取り入れた大阪市中心公会堂が開館する。大正10年（1921）には大阪市庁舎が堂島から移転して竣工し、「近代復興式」とよばれる堂々たる姿を出現させた。また、落成記念に大阪市歌が制定された。

朝日新聞社が肥後橋に新社屋を建設したのが大正5年（1916）で、同社は、昭和元年（1926）に劇場や展示施設を備えた朝日会館を、昭和6年（1931）に、飛行機の航空標識塔を備え、スケートリンクや各種の専門店が入った朝日ビルディングを開館する。昭和10年（1935）には、海外の賓客にも備えた新大阪ホテル（現・リーガロイヤルホテル）が開業する。

また市民の憩いの場である中之島公園が整備され、震災の教訓から災害を意識しつつ、パリのシテ島などをモデルに橋梁の架けかえが進められる。昭和 12 年（1937）には都市の美観を意識して、土佐堀川河畔の逍遙道路が完成する。

近代の中之島はシビックセンターとして政治経済の中心を担っただけではなく、都市に住まう喜びを実感させる空間として市民生活に潤いを与え、大阪市民のプライドを支える場所となった。

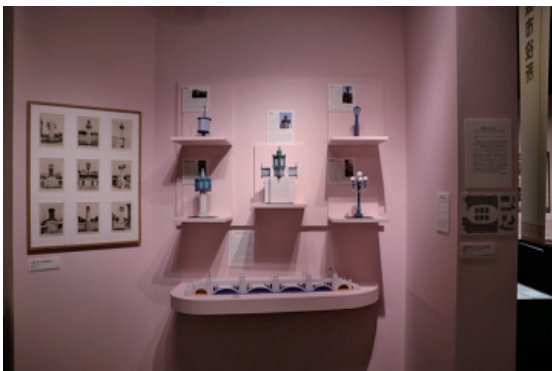
ここでは、中央公会堂建設時の写真、当時使用されていた食器類（大阪市所蔵）、旧大阪市庁舎のまぐさやステンドグラス（大阪市所蔵）、新大阪ホテルの模型（個人蔵）、新大阪ホテ



新大阪ホテルコーナー



朝日新聞コーナー



中之島にかかる橋のペーパークラフト

ルに飾られていた安井曾太郎「薔薇」（リーガロイヤルホテル所蔵）、朝日新聞社のビル模型（竹中工務店所蔵）などを目玉展示とした。

また、「ART で GENKI」代表の津村長利氏にご協力いただき、中之島にかかる石橋の街灯と水晶橋の立版古（ペーパークラフト）を作成いただき、『大大阪橋梁撰集』（創生社、昭和 4 年（1929））とともに展示をした。

第 3 章 深化する“アートアイランド”—新しい文化芸術の発信拠点—

戦後も中之島は文化芸術の重要拠点である。昭和 33 年（1958）にクラシック音楽の本格的ホールとしてフェスティバルホールが開館し、国際音楽祭「大阪国際フェスティバル」が開始された。

美術では、昭和 37 年（1962）吉原治良をリーダーとする具体美術協会の展示施設「グタイピナコテカ」が開館し、昭和 55 年（1980）に大阪府立現代美術センター（2012 年閉館）、昭和 57 年（1982）に大阪市立東洋陶磁美術館の開館、平成 16 年（2004）万博記念公園から国立国際美術館が移転する。大阪市中心部中央公会堂で森村泰昌プロデュースの「テクノセラピー〜こころとからだの美術浴〜」（1998 年）、公園全体を会場にした「水都大阪 2009」（2009 年）も開かれた。

文学作品にも中之島は登場する。昭和 21 年 (1946) の織田作之助「アド・バルーン」をはじめ、山崎豊子の「白い巨塔」、福田紀一「霧に沈む戦艦未来の城」、宮本輝「泥の河」、東秀三「中之島」などの舞台となった。

さらに中之島は教育の場でもあった。明治期には大阪大学医学部や工学部の源流にあたる大阪医学校や大阪高等工業学校があり、昭和 6 年 (1931) に大阪帝国大学が開校している。そして現代。2018 年にはフェスティバルタワー・ウエスト内に中之島香雪美術館が、2022 年には大阪中之島美術館が誕生した。さらに 2023 年 4 月には大阪大学中之島センターがリニューアルオープンし、そのなかに芸術系の拠点として「中之島芸術センター」が新設されたことにより、中之島は世界的にもユニークな“美術館島”に変貌を遂げている。

ここでは、大阪帝国大学やグタイピナコテカの資料、中之島を舞台とした文学作品、そして「中央公会堂可視化プロジェクト」と題して、コンペで落選した建築図案を現在の中之島風景と合成した動画を展示した。



大阪大学と中之島コーナー



武田五一（左）と矢橋賢吉（右）の大阪市中央公会堂のコンペ案と「中央公会堂可視化プロジェクト」の動画

関連イベント

○シンポジウム

6 月 25 日 (土) には、シンポジウム「歴史の可能性を可視化する―再現される大阪市中央公会堂コンペ案」を大阪市中央公会堂で開催した。

会場となった中央公会堂は、ネオ・ルネッサンス様式を基調とした美しいデザインで



シンポジウム パネルディスカッションの様子

中之島のシンボルとなっているが、このデザインは 13 名が参加した設計競技 (コンペ) で決定された。第一等選ばれたのが岡田信一郎の案だが、他に武田五一、長野宇治平、伊東忠太、矢橋賢吉ら名だたる建築家が参加していた。「もし、他の建築家の案が選ばれていたなら、中之島は現在どのような景観だったのだろうか」そのような発想からこのシンポジウムを

企画し、建築史、美術史、建築工学、それぞれの専門家の観点から中之島の歴史と景観を考えた。

参加者はほぼ満席となり盛況で、パネルディスカッションでは専門家や一般市民から積極的な意見も飛び交った。

○ミュージアムレクチャー

会期内に2回のミュージアムレクチャーを修学館セミナー室で開催した。7月2日(土)は、阿部文和氏(大阪歴史博物館・学芸員)に「中之島に開花した近代建築」と題し、中央公会堂、府立中之島図書館、日本銀行、ダイビルなど近代建築の魅力についてお話しいただいた。

7月23日(土)は、福田知弘氏(大阪大学大学院工学研究科・准教授)に「中之島を楽しもう」と題し、これまで福田氏が取り組まれた中之島でのイベントについてや、ARやVR技術をつかった町おこしについてお話しいただいた。最後に中央公会堂のコンペ案をARで再現する試作アプリを参加者にも体験していただいた。

おわりに

予算の都合もあり、今回図録や叢書の作成はできなかったが、少しでも多くの方楽しんでいただくために、解説集を作成しホームページ上で公開した。産経新聞・読売新聞・ほか、関西大学で社会学部メディア専攻の学生たちや、水都大阪からの取材を受け、幅広い世代に広報が出来たと感じる。

若者向けに中之島の魅力発信 Project : <https://aquaarte2022.my.canva.site>

水都大阪 YouTube : <https://www.youtube.com/watch?v=2-cKfpu3fh4>

本展覧会がきっかけとなり、2023年3月から中央公会堂の展示室では「あったかもしれない大阪市中央公会堂」パネル展示が、2023年5月2日～7月30日まで、大阪大学中之島芸術センターの開館記念として「アートトリップナカノシマ モダン中之島コレクション・アネックス」展が開催されることになった。

さらに、2023年9月9日には大阪市コミュニティ協会とともに、中之島会館(フェスティバルタワーウエスト4階)でシンポジウム「大阪的って何?」を主催することになった。本展覧会は、中之島を文化芸術の拠点として、また大阪市民のコミュニティの場として活性化していくための役割を担えたように感じる。

最後に、展覧会・イベントにご来場いただいた皆様、関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

2. 展覧会報告Ⅱ

大阪大学総合学術博物館（MOU）創立 20 周年記念展

地域に生き世界に伸びる

MOU 収蔵品展 — 創立からもう 20 年 —

概 要

大阪大学総合学術博物館創立 20 周年記念展「地域に生き世界に伸びる MOU 収蔵品展—創立からもう 20 年—」を 2022 年 10 月 24 日（月）から 12 月 17 日（土）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。「地域に生き 世界に伸びる」がモットーの大阪大学に、2002 年（平成 14 年）に創立された大阪大学総合学術博物館（The Museum of Osaka University：略称 MOU）は、本学の精神的源流で大坂町人の学問所である懷徳堂と適塾や、大阪帝国大学（1931 年創立）以来の教育研究の成果である学術資料の収集・保存・展示を使命とするとともに、地域社会とも密接に連携して、本学の歴史から最新の教育・研究成果までを学内外に紹介する重要拠点として活動してきた。博物館創立から 20 周年を迎えて節目となる今年、これまで蓄積してきた膨大な学術資料の中から、未公開の寄贈・寄託資料を中心に公開する記念展覧会を開催した。展覧会場を、アート作品、収蔵品の教育への活用、教員の研究資料、卒業生の資料の 4 つのカテゴリーに分け、総合学術博物館の多様な活動や役割について紹介した。本展覧会の期間中の来場者は、2,070 名と好評であった。

大阪大学総合学術博物館 創立 20 周年記念展

テーマ：「地域に生き世界に伸びる MOU 収蔵品展—創立からもう 20 年—」

期 間：2022 年 10 月 24 日（月）～ 12 月 17 日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館、豊中市

共 催：豊中市市民ホール等指定管理者

入館者数：2,070 名

<創立 20 周年記念シンポジウム>

10 月 29 日（土） 「学びと遊びをつなぐもの—21 世紀における大学博物館の役割」

会場：大阪大学会館講堂

講演：「電腦化時代の博物館」

井上 章一（国際日本文化研究センター所長）

「大学と大学ミュージアム「京都・大学ミュージアム連携」体験を中心に」

並木 誠士（京都工芸繊維大学特定教授・同大学美術工芸資料館長）

「学者を世に」

橋本 幸士（京都大学大学院理学研究科 物理学・宇宙物理学専攻教授）

「「〇〇〇」のある私たちの暮らし」

徳田明仁（愛媛大学ミュージアム准教授・同大学広報室副室長、

大阪大学総合学術博物館招へい准教授）

「大阪大学総合学術博物館 20 年の歩み」

横田 洋（大阪大学総合学術博物館助教）

伊藤 謙（大阪大学総合学術博物館講師）

パネルディスカッション

パネリスト：井上章一、並木誠士、橋本幸士、徳田明仁 コーディネーター：永田 靖

来場者数：115 名

<ミュージアムレクチャー>

12月2日(金) 「MOU アートの実験室―挑戦する大学博物館―」

会場：豊中市立文化芸術センター 展示室

講師：橋爪 節也（大阪大学総合学術博物館 教授）

来場者数：33名

12月9日(金) 「マチカネワニと歩んだ20年」

会場：豊中市立文化芸術センター 多目的室

講師：江口 太郎（大阪大学 名誉教授）

来場者数：34名

― 創立からもう20年 ― 大阪大学総合学術博物館(MOU) 創立20周年記念展

MOU 収蔵品展

The Museum of Osaka University (MOU) Special Collection

地域に生き世界に伸びる

〒560-0043
大阪府豊中市待兼山町1-20
Tel : 06-6850-6284
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

大阪大学総合学術博物館
待兼山修学館
The Museum of Osaka University



《MOU Webサイト》

会 期: 2022年10月24日[月]~12月17日[土]
開館時間: 10:30~16:30 (入館は16:00まで)
休館日: 日曜日・祝日

入場無料

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
開催日程・休館日・開館時間・イベントが変更になる
場合があります。ご来館前に当館ホームページ
最新情報をご確認ください。



※待兼山修学館のステンドグラスをモチーフにしたデザインです。

主催：大阪大学総合学術博物館・豊中市

共催：豊中市市民ホール等指定管理者

Mou 収蔵品展

地域に生き 世界に伸びる

The Museum of Osaka University (MOU) Special Collection

「地域に生き 世界に伸びる」がモットーの大阪大学に、2002年(平成14年)に創立された大阪大学総合学術博物館(The Museum of Osaka University:略称MOU)は、大学の精神的源流で大阪町人の学問所である懐徳堂と適塾や、大阪帝国大学(1931年創立)以来の教育研究の成果である学術資料の収集・保存・展示を使命とするとともに、地域社会とも密接に連携して、大学の歴史から最新の教育・研究成果までを学内外に紹介する重要拠点として活動してきました。

博物館創立から20周年を迎えて節目となる今年、これまで蓄積してきた膨大な学術資料の中から、未公開の寄贈・寄託資料を中心に公開する記念展覧会を開催します。展覧会場を、アート作品、収蔵品の教育への活用、教員の研究資料、卒業生の資料の4つのカテゴリーに分け、総合学術博物館の多様な活動や役割について紹介します。「知」を刺激し豊かな「感性」を養う大阪大学らしい特色ある資料の数々を、どうぞお楽しみください。展覧会開催が、未来にむけて大阪大学総合学術博物館がさらに発展する重要な機会となりますよう、ご来館をお待ちしております。

Symposium

《シンポジウム》

大阪大学総合学術博物館創立20周年記念シンポジウム

「学びと遊びをつなぐもの」

—21世紀における大学博物館の役割—

日 時:2022年10月29日(土) 会 場:大阪大学会館講堂

13:00-16:45 講演およびパネルディスカッション

17:00-18:00 博物館展示観覧

※詳細は当館ホームページをご覧ください。

Museum Lecture

《ミュージアムレクチャー》

「MOU アートの実験室」

—挑戦する大学博物館—

日 時:12月2日(金)19:30-21:00

講 師:橋爪節也(大阪大学総合学術博物館教授)

「マチカネワニと歩んだ20年」

日 時:12月9日(金)19:30-21:00

講 師:江口太郎(大阪大学名誉教授)

会 場:豊中市立文化芸術センター

〒561-0802 大阪府豊中市曽根東町3-7-2

※ミュージアムレクチャーの詳細・申込方法は当館ホームページをご覧ください。

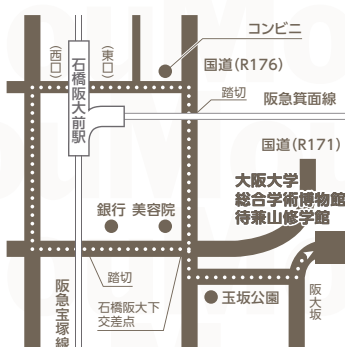
Access

《アクセスマップ》

- 阪急電鉄宝塚線「石橋阪大前駅」より徒歩約10分
- 大阪モノレール「柴原阪大前駅」より徒歩約20分
※公共の交通機関をご利用ください。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、掲載内容に変更が生じる場合がございます。
ホームページで最新情報をご確認ください。
- 入館の際、マスク着用・検温・消毒をお願いします。



問い合わせ先
大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20
Tel:06-6850-6284
<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>



《展示構成》

Room 1 MOUの収蔵品—アート—

服部天神文庫資料(豊中市蔵、当館寄託)、今村輝久作品、具体美術資料

Room 2 MOUの収蔵品—教育への活用—

松本幸山作品、織田一磨作品、浪花百景

Room 3 MOUの収蔵品—教員の記憶—

鉱物標本、マチカネワニ関連資料、理化学機器資料、演劇学関連資料など

Room 4 MOUの収蔵品—卒業生の記憶—

旧制高校関連資料、旧大阪外国語大学資料、大阪大学吟詩部資料、中村貞夫作品など



矢野橋村(1890-1965年)『白雲朝色』豊中市蔵(当館寄託)



松本幸山(1925-2010年)『Autumn in New York II』



鉱物標本 孔雀石(左)、青鉛鉱(右)



理化学機器資料(オゾン発生器)



中村貞夫(1934年-)
『富士(夏)』

報 告

大阪大学総合学術博物館 創立 20 周年記念展

「地域に生き世界に伸びる MOU 収蔵品展 ―創立からもう 20 年―」

大阪大学総合学術博物館

講師 伊藤 謙

創立 20 周年記念展

テ ー マ：「地域に生き世界に伸びる MOU 収蔵品展 ―創立からもう 20 年―」

期 間：2022 年 10 月 24 日（月）～ 12 月 17 日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館、豊中市

共 催：豊中市市民ホール等指定管理者

入館者数：2,070 名

【開催趣旨】

「地域に生き 世界に伸びる」がモットーの大阪大学に、2002 年（平成 14 年）に創立された大阪大学総合学術博物館（The Museum of Osaka University：略称 MOU）は、本学の精神的源流で大坂町人の学問所である懐徳堂と適塾や、大阪帝国大学（1931 年創立）以来の教育研究の成果である学術資料の収集・保存・展示を使命とするとともに、地域社会とも密接に連携して、本学の歴史から最新の教育・研究成果までを学内外に紹介する重要拠点として活動してきました。博物館創立から 20 周年を迎えて節目となる今年、これまで蓄積してきた膨大な学術資料の中から、未公開の寄贈・寄託資料を中心に公開する記念展覧会を開催します。展覧会場を、アート作品、収蔵品の教育への活用、教員の研究資料、卒業生の資料の 4 つのカテゴリーに分け、総合学術博物館の多様な活動や役割について紹介します。



図1 本展のポスター

大阪大学総合学術博物館待兼山修学館のステンドグラスをモチーフにしたビジュアルデザインとした

【展示構成について】

会場を4つの展示 Room に分けて展覧会を構成しました。Room1 では「MOU の収蔵品 - アート -」と題し、日本絵画資料（豊中市蔵、当館寄託）、今村輝久作品、具体美術資料を中心に展示しました。Room2 では「MOU の収蔵品 - 教育への活用 -」と題し、松本泰山作品、織田一磨作品、浪花百景などを中心に展示しました。Room3 では「MOU の収蔵品 - 教員の記憶 -」と題し、鉱物標本、マチカネワニ関連資料、理化学機器資料、演劇学関連資料などを中心に展示しました。Room4 では「MOU の収蔵品 - 卒業生の記憶 -」と題し、旧制高校関連資料、旧大阪外国語大学資料、大阪大学吟詩部資料、中村貞夫作品などを中心に展示を構成しました。

【展覧会全体の概要】

本展覧会においては、貴重な学術資料の中から精選された展示品の公開が行われました。それは、当博物館の創立からこれまでの20年の歳月を経て蓄積されてきた多種多様な資料の中から、公の目に晒されることのなかった寄贈・寄託資料を中心に選び出したものであります。これらの展示は、アート作品、教育用収蔵品、教員の研究資料、そして卒業生の資料といった四つのカテゴリーに分けて配置され、博物館の多面的な活動やその役割について、訪れた皆様に幅広く紹介することができました。

この20周年記念展示会を通して、我々 MOU がこれまで果たしてきた学術資料の収集、保存、展示といった機能と、地域社会との連携という重要な役割について、改めて振り返ることが可能となりました。その一方で、未来に向けた展望や新たな取り組みについても考察し、その発展的な可能性を予見する機会ともなりました。

今回の展示会では、特に豊中市所蔵の日本絵画資料群や大阪大学吟詩部の資料といった、初公開となる資料の紹介を行いました。これら豊中市所蔵の作品群は、学術研究や教育、展示のために MOU に寄託されているものであり、地元自治体との密接な連携の成果を示すものです。一方、大阪大学吟詩部の資料は、学生の歴史を保存するという意義を示すもので、その重要性を明示しています。このような展示を通じて、MOU が、地域との連携を大切にし、学生たちの活動や歴史を後世に伝える役割を学内で果たしていることを、訪れる皆様に理解して頂き、共感していただくことを願っています。

また、今回の展覧会では、MOU 教員が取り組む科学研究費助成事業（科研費）の研究プロジェクトの一部として、整理・研究が行われた MOU 所蔵の鉱物群も公開しました。この展示により、大学博物館が学術研究の一環として、アウトリーチ活動を積極的に推進していることが、訪れる皆様により具体的に理解されることとなったでしょう。

【教育の場としての大学博物館】

MOU の教育活動についても深く掘り下げた紹介を行いました。2010 年度から、MOU では学内実習を担当し、収蔵品や複製品を用いた「模擬展覧会」の企画・開催を行ってきました。学生たちは、展覧会のコンセプト作りから、展示空間のデザイン、ポスターやチラシの制作、そして資料や解説パネルの展示まで、全ての手順を実際の展覧会開催と同様に行ってきます。本展では、これまで模擬展覧会で使用された収蔵品や学生によって制作されたポスターなどを展示し、MOU の教育活動を紹介しました。この結果、博物館が大学教育の一環として果たしてきた役割や、学生たちの成長を支援していることが伝わったことと思います。実際に、模擬展示を通じた経験を通じて学芸員の道を歩むことを決意した学生が存在するのは言うまでもありません。さらに、未来の研究テーマを見つけるきっかけとなる学生も現れており、彼らが生み出した著作物についても本展覧会で紹介することができました。

【最後に】

新型コロナウイルス対策が求められる厳しい状況下においても、展覧会と関連イベントは無事に開催され、多くの来場者に楽しんでいただくことができました。この喜ばしい結果には、関係者各位の継続的な協力と努力が欠かせませんでした。私たちの 20 周年を記念する展覧会を通じて、博物館関係者は将来に向けた共同作業の基盤を築いたと言えるでしょう。この特別な展覧会は、私たちにとって格別な意味を持ちました。その場に足を運んでいただいた来場者の皆様に心から感謝の意を表します。皆様のおかげで、私たちは新たな展示物やプログラムを提供することができ、展示内容の幅も広げることができました。最後になりますが、来場者や関係者各位に、心から感謝の意を表します。



図2 展示室の様子（第1章）



図3 展示室の様子（第2章）



図4 展示室の様子（第3章）



図5 展示室の様子（第4章）

3. 展覧会報告Ⅲ

大阪大学総合学術博物館展覧会

くるまいすで GO!
どうする★バリバリア

概 要

大阪大学総合学術博物館 展覧会「くるまいすで GO! どうする★バリバリア」を 2023 年 1 月 31 日（火）から 3 月 4 日（土）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。この展覧会は、大阪大学大学院人文学研究科と大阪大学総合学術博物館が共同で主催するアートマネジメント人材育成プログラム「中之島に馳を放つ—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環として開催した。本プログラムの「〈臨床のアート〉 walking practice 同じ景色をみよう」では、講師に美術家の檜皮一彦を迎え、受講生とともに“walking practice”を実施し、その中で体験あるいは思索した内容等について、アーカイブを残し、展覧会へと発展させたものである。展覧会の内容についても受講生と相談、議論を積み重ねて実現した。本展覧会の期間中の来場者は、1,203 名と好評であった。

大阪大学大学院人文学研究科・大阪大学総合学術博物館「中之島に馳を放つ—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」

「〈臨床のアート〉 walking practice 同じ景色をみよう」

展覧会「くるまいすで GO! どうする★バリバリア」

期 間：2023 年 1 月 31 日（火）～ 3 月 4 日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム

主 催：大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学総合学術博物館

連 携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

大阪中之島美術館

淨るりシアター

公益財団法人 吹田市文化振興事業団（メイシアター）

豊中市都市活力部魅力文化創造課

兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）

公益財団法人 箕面市メイプル文化財団

入館者数：1,203 名

<イベント>

車椅子タイムアタック

日程：2023 年 2 月 4 日（土）～3 月 4 日（土）、随時

会場：「くるまいすで GO! どうする★バリバリア」展覧会場

参加者：「中之島に馳を放つ」受講生、「中之島に馳を放つ」講師、来客の方々

参加人数：のべ 83 名

2023.1.30 (月) ~ 3.4

会場：大阪大学総合学術博物館 3 階

どうする★バリバリア

KURUMAIISU de Goi
まい！
GO
へん

10:30 ~ 16:30
(最終入館 16:00)
日曜日・祝日休み

入場無料

「中之島に融を放つ——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」
〈臨床のアート〉 walking practice 同じ景色をみよう

大阪大学大学院人文科学研究科 大阪大学総合学術博物館 主催

中之島に
自由を放す

2023.1.30~3.4



website

してもろてもええやろか。

ワッペン

メディウム

24

臨まるといかに

二、

で

んけど堪忍な。

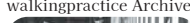


大阪生まれ。身体性を

大阪生まれ。身体性を

インに、ワークシヨップや

ND FRONT OSAKA ART

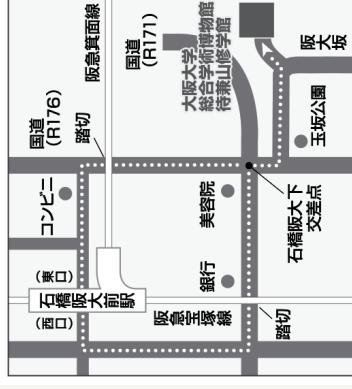


エグゼクティブプロデューサー：山崎達哉
クリエイティブディレクター：檜皮一彦
テキストディレクター：鄭美香
展覧会スーパーバイザー：宮内芽依
展示インストララー：後藤雅樹
キュレトリアルリサーチャー：原田美緒、
フライヤーデザイン：小川美陽

博物館と共創する

協力

ける文化芸術推進事業



大阪府豊中市待兼山町1-20

大阪大学総合芸術博物館 待兼山修学館

(阪急電鉄宝塚線・石橋阪大前駅より徒歩約10分、

Tel : 06-6850-6284

お問い合わせ先

<https://nakanoshima-itachi.org/contact/index.html>



大學から



2022)がある。

報 告

大阪大学大学院人文学研究科・大阪大学総合学術博物館

「中之島に鼯を放つ——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」

「〈臨床のアート〉 walking practice 同じ景色をみよう」

大阪大学総合学術博物館 展覧会

「くるまいすで GO！ どうする★バリバリア」

大阪大学大学院人文学研究科
特任助教（常勤） 山崎 達哉

【開催趣旨】

大阪大学大学院人文学研究科では、大阪大学総合学術博物館と共同の主催で、令和4年度にアートマネジメント人材育成のプログラムを開催した。これは、文化庁「大学における文化芸術推進事業」による助成を受けたもので、プログラム名を「中之島に鼯を放つ——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」と題し、3年計画のプログラムとして開講した。本プログラムでは、今日のアート人材に求められている、多様な芸術ジャンルに精通し、現代文化の複雑な諸課題に柔軟に対応できる実践力を養うことを目的とした。また、学際性に富み、アーティストとの交渉能力を備え、地域社会とのファシリテーション力を持ち、アート創造のプロセスに関わることのできる能力を持つ人材の育成も試みた。なお、本事業は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール、大阪中之島美術館、浄るりシアター、吹田市文化会館メイシアター、豊中市都市活力部魅力文化創造課、兵庫県立尼崎青少年創造劇場ピッコロシアター、箕面市メイプル文化財団と連携して行った。

プログラムには、統括セッションと4つのリサーチ・フレーム（都市のアルケオロジー、アートとその分身、臨床のアート、日常のボイエティーク）を設定し、縦横に交差しつつ学び、総合的なアート実践能力を育成できるようにした。様々な分野で活躍する、アーティスト、アートディレクター、研究者等と受講生とが交流を深め、ネットワークを構築し、アートによる多面的な価値の創出も目指した。

本展覧会は、4つのリサーチ・フレームのうちのひとつ、〈臨床のアート〉「walking practice 同じ景色をみよう」のプログラムにおいて開催した。“walking practice（通称「わっしょい」または「ワッショイ」）”は美術家の檜皮一彦が実践する、ワークショップ的な活動で（近年では参加型のパフォーマンスという表現もある）、参加者は、「車椅子を持ち上げ続ける」「車椅子を持ち上げ禁止」「音を鳴らさない」「「スロープ」使用禁止」などの様々なルールのもと、車椅子を移動させるものである。中でも車椅子を持ち上げて移動することについては、段差を越えやすくする、車椅子に乗っている方の目線を高くできるなどの理由があり、その他の理由やその効果等については参加者それぞれで考える余地があった。なお、車椅子を移動させる際、車椅子ユーザーの檜皮一彦は自身の車椅子を提供し、スケートボードにて移動する（スケートボードは檜皮自身の日常生活でも活用されている）。

“walking practice”は、11月27日(日)に大阪大学豊中キャンパス、12月4日(日)に大阪城公園、12月11日(日)に新今宮周辺(通天閣～Omo7大阪|星野リゾート)、12月17日(土)にグランフロント大阪周辺～Nu茶屋町周辺、12月18日(日)に、大阪大学中之島センター、大阪中之島美術館、国立国際美術館、12月25日(日)になんば・大阪タカシマヤ前周辺～中之島周辺、大阪市中心公会堂にて実施した。また、展覧会に向けたレクチャーを、11月13日(日)(講師：原田美緒(金沢21世紀美術館))、12月24日(土)(講師：筒井彩(ふくやま美術館)、宮内芽依(アートコーディネーター))、1月7日(土)(講師：筒井彩(ふくやま美術館))、1月14日(土)の4回実施した。その他、適宜受講生と連絡を取り、相談をしながら進めた。これらの“walking practice”を通して得た体験や知見、思索などをもとに、「中之島に鮠を放つ」の受講生がアーカイブ化した内容を展示した展覧会が、「くるまいすでGO! どうする★バリバリア」である。受講生が“walking practice”の経験をいかに鑑賞者へ伝えられるかを試みた展示であり、展覧会のタイトルも受講生との議論の中で決定した。また展覧会チラシ(デザイン：小川美陽)は、当初、日本語と英語などの二ヶ国語での表記という意見もあったが、開催地(大阪)での言語を重視するという観点から大阪のことで表記することとなった。なお、展覧会の会場設営等に関しては、後藤雅樹(ジーファクトリー)の協力を得た。

展覧会「くるまいすでGO! どうする★バリバリア」の部屋割りは、図1のようになった。各部屋に用意された障壁は、入り口から順に、障害物があり行き先を阻む部屋(バリバリア)、数センチだけ高くなったクランク形の通路(カクカクバリア)、いくつかの

障壁(バリア)の紹介

1. KUR-UMAI-SU-UD-EGO タイムアタック

展覧会場タイムトライアルの記録映像とランニングボードです。展示空間のバリバリアは、用意されたかのように街をレース場とするモノコの如く、くるまいすの行先を阻みます。ここでのレースは、速さを争うだけでなく、己との闘いでもあります。くるまいすに栄光あれ。
アーカイブ作成者：楢皮一彦、山崎達哉

11. ここで一言

わっしょいに出会って、私の短歌に新たに生まれたもの……
楢皮さんと「彼」に近づいていこうとしている自分、2人の視点から世界を見ようとしている自分……etc.
歩く感性は動き、思考が生まれる。ましてわっしょいでは、はまりそうだ。いや、はまっている。
アーカイブ作成者：岡田祥子、近江由紀子、小川美陽、片山恵里、坂本京子、楢皮一彦、宮内芽依、山崎達哉

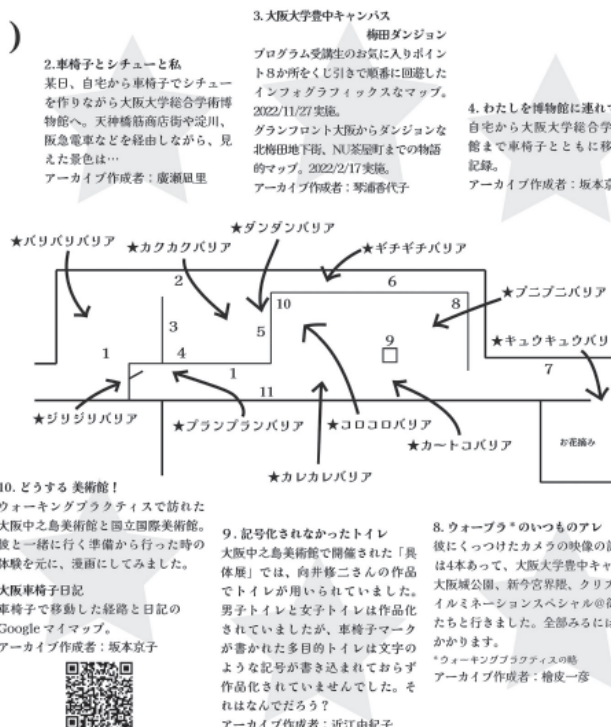


図1 展示室の展示物(アーカイブ)と障壁(バリア)の紹介をしたハンドアウト



図2 展示室の様子

段を登ることで展示物を目線の高さにできる階段（ダンダンバリア）、車椅子ではぎりぎりの幅となる程度の狭くなった通路（ギチギチバリア）、入り口の幅が狭く空間も広くないため入りづらいトイレの入り口（キュウキュウバリア）、行く手を阻むカート（カートコバリア）、座り心地の良いクッションに座って映像が眺められる休憩所のようなスペース（プニプニバリア）、車椅子で登るのは難しく徒歩でも勾

配を感じられる坂（コロコロバリア）、“walking practice”で車椅子に乗った「彼」が道を塞ぐ通路（カレカレバリア）、天井から吊られた車椅子によって高さを制限された通路（ブランブランバリア）、普段は閉ざされた扉があり、通る際に約100cmほどしか口のない蹴り口のような出口（ジリジリバリア）、となった（なお、「ジリジリバリア」の扉は入り口側からは開けられないようになっている）。また、図1にはないが、アーカイブ11の短歌は文字が重なっておりデザイン的であるが読みづらさも生んでいたため「モジモジバリア」の名前がついていた。それぞれの障壁は当初、展覧会場へ来られる様々な方にとって「バリア」を感じてもらうことを意図していたが、結果として車椅子ユーザーにとっての「バリア」が強く出るものとなった。一方、「プニプニバリア」のように、休憩が前へ進むということをも阻むものであって、目の前に立ち塞がるかたちではない障壁もあった。また、文字が読みづらい「モジモジバリア」は、物理的な障壁だけでなく、情報へのアクセスという観点でのアクセシビリティを考える示唆的な壁面となっていた。

「展覧会は成長する」という考えのもと、展覧会場は初期と後期では違う様相をみせた。入り口すぐの「バリバリバリア」は車椅子が通れるぎりぎりの幅を保ちつつもその形を変えていった。展示室内はイラストレーターのあらすけや檜皮一彦を中心に受講生も巻き込んで、グラフィティが施されていった。

同様に「ジリジリバリア」はそこに出口があることを認識されづらい状態であり、グラフィティが追加され、出口への認識が高まった。それ以前の出口があるかわからない状態は、物理的、情報的アクセシビリティについて考えられる場所でもあった。

展覧会において、受講生はアーカイブを提出、作成しただけではなく、全体の

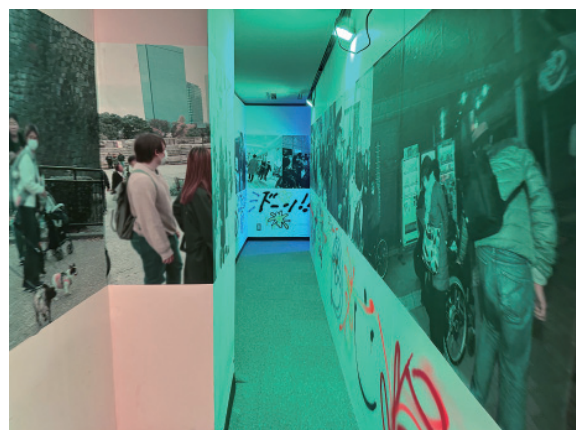


図3 狭くなった通路

コンセプトやタイトルなどを考える議論にも参加し、設営にも関わった。会期中は当番制で、受付業務も担い、ノートなどで情報の共有も行っていた。展覧会の準備や運営について少しでも学びがあったなら嬉しく思う。

さて、本展覧会は先に述べたように育つ展覧会を目指していた。一方で、檜皮は、動的な展覧会となるように心がけていた。アートやアート以外の何かが常に起きている「現場」感をつくりたかったという。そのひとつとして生まれたと考えられる企画が、会期途中から始まった「車椅子タイムトライアル」である。参加者は決められた電動車椅子にのり、展示場を一周してスタート地点に戻るものであるが、その際、決められたチェックポイントを四つ通る必要があった。会場一周と四つのチェックポイントを通ることで、用意されたほぼ全てのバリアを車椅子に乗って実体験できた。その実体験は用意された障壁を辿るもので、決して生活空間にあふれる障壁よりも難しくはない。展示空間に用意された障壁は比較的やさしいものであった。それでも、参加者は仮設の通路からはみ出し、仮設の壁にぶつかりながらゴールをめざした。実際にやってみる、ということが効果的に現れた状況だったといえる。そのほか、受講生が自宅から博物館まで車椅子を運んでみるプロジェクトも実施し、展覧会のアーカイブとなった。これも、展覧会が動いていて、育っていく様子をみせているもので、常に変化している展覧会をつくることができた。

展覧会「くるまいすでGO! どうする★バリバリア」は参加者、来場者、関係者などの目にどのようなうつったのであろうか。これが小さなきっかけになればと願う。



図4 展示室の「彼」



図5 出口の扉と踊り口

4. サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館／ @オンライン

期 間：・サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館

2023 年 1 月 28 日（土）カフェ No.168 2 月 4 日（土）カフェ No. 169

・サイエンスカフェ@オンライン

2023 年 1 月 21 日（土）カフェ No.167 2 月 18 日（土）カフェ No. 170

3 月 11 日（土）カフェ No.171

主 催：大阪大学総合学術博物館 豊中市立中央公民館

大阪大学で行われている最新の研究を広く社会に紹介するとともに、普段、接する機会の少ない専門家と一般の方々の間のコミュニケーションの場となることを目指して「サイエンスカフェ@待兼山」を開催した。「サイエンスカフェ@待兼山」は 2008 年度から豊中市と連携して開催し、文系、理系を問わず様々な分野のテーマを扱ってきた。また、2016 年度からは、豊中市立中央公民館との共催で、「サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館」を実施してきたが、2020 年度および 2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「サイエンスカフェ@待兼山」（オンライン）のみの開催となった。両講座ともに現在では総合学術博物館のイベントとして定着し、幅広い年代に参加していただいている。

尚、2022 年度は、2 講座では 3 年ぶりに豊中市立中央公民館にて対面で実施し、3 講座はオンラインで実施した。オンラインの実施により遠隔地からの参加など参加者層に変化が見られた。

サイエンスカフェの実施状況：

2008 年度	前期	カフェ No. 1 ～ 13	実施 13 回
	後期	カフェ No. 14 ～ 27	実施 14 回
2009 年度	前期	カフェ No. 28 ～ 37	実施 10 回
	後期	カフェ No. 38 ～ 46	実施 9 回
2010 年度	前期	カフェ No. 47 ～ 55	実施 9 回
	後期	カフェ No. 56 ～ 65	実施 10 回
2011 年度	前期	カフェ No. 66 ～ 80	実施 15 回
	後期	カフェ No. 81 ～ 88	実施 8 回
2012 年度	前期	カフェ No. 89 ～ 99	実施 11 回
	後期	カフェ No.100 ～ 107	実施 8 回
2013 年度	前期	カフェ No.108 ～ 112	実施 5 回
	後期	カフェ No.113 ～ 116	実施 4 回
2014 年度	通年	カフェ No.117 ～ 126	実施 10 回
2015 年度	通年	カフェ No.127 ～ 134	実施 8 回
2016 年度	通年	カフェ No.135 ～ 141	実施 7 回
		カフェ No.C-1 ～ C-3	実施 3 回
2017 年度	通年	カフェ No.142 ～ 147	実施 6 回
		カフェ No.C-4 ～ C-6	実施 3 回
2018 年度	通年	カフェ No.148 ～ 151	実施 6 回
		カフェ No.C-7 ～ C-9	実施 3 回
2019 年度	通年	カフェ No.152 ～ 153	実施 2 回
		カフェ No.C-10～ C-11	実施 2 回
2020 年度	通年	カフェ No.157 ～ 161	実施 5 回
2021 年度	通年	カフェ No.162 ～ 166	実施 5 回
2022 年度	通年	カフェ No.167 ～ 171	実施 5 回

No.	実施日	タイトル	要旨
		コーディネーター	
167	1/21 (土)	風神雷神像の魅力に迫る	日本では古来より五穀豊穡を祈り、風や雷の神を祀ってきました。そうした神々をユニークな鬼の姿で表したのが風神雷神像です。風神雷神という、俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」が著名ですが、中世までは仏教美術の中で登場することがほとんどでした。本講座では、仏教美術における風神雷神のはたらきを見ていき、その姿が現代までどのように受け継がれ信仰されてきたのかを考えてみたいと思います。
		佐藤 優 氏	
168	1/28 (土)	細胞の中のごみ処理システム	体内に 37 兆個ほど存在するとされる細胞は、様々なストレス環境によりダメージを受けると、不要な「ごみ」を蓄積します。ここでは、私たちの持つ細胞内ごみ処理のための非常に巧妙なシステム、そして病気との関連についての話をします。
		池田 史代 氏	
169	2/4 (土)	2つの透析療法～どのようなものか？どちらにするか？～	私たちは、体内に生じた老廃物や余分な水分を、尿として排泄しています。尿を作る腎臓の働きが低下した場合には、透析（血液透析や腹膜透析）が必要となります。2つの透析療法がどのように違うかをご紹介しますとともに、どのように治療法を選択するべきかについて、一緒に考えたいと思います。
		北村 温美 氏	
170	2/18 (土)	死なない細胞がもつ特別な仕組み－生き物が死ぬのはなぜだろう？	私たちの体はいつか死にますが、体の中の細胞のうち「生殖細胞」は「不死性」をもち、次の世代へと受け継がれ、生き続けることができます。私たちの体は、数十億年前と考えられている生命誕生時から一度も死んでいない細胞でできていると考えられるのです。今回は、生殖細胞の不死性の仕組みを少し紹介します。
		坂口 愛沙 氏	
171	3/11 (土)	漢方薬の研究データの見方	漢方薬に対して良いイメージを持たれている方とそうでない方と両方おられると思います。本講演では漢方薬研究の現状とそれを踏まえての漢方薬のより良い活用方法について、お話できればと思います。個別の漢方薬の解説にはなりませんので、ご注意ください。
		原田 和生 氏	

Science Café

@豊中市立中央公民館 / @オンライン



大阪大学総合学術博物館と豊中市立中央公民館が開催するサイエンスカフェを楽しみませんか。「科学する」とはということか、研究者とともに考えていきます。今年度は対面開催もまじえて、専門家と一般の方々とのコミュニケーション不全を少しでも改善したいと思っています。各回**参加無料**です。お気軽にご参加ください。

●対面開催

※オンライン開催はありません

No. 168

2023年1月28日(土)

「細胞の中のごみ処理システム」

講師:池田 史代(生命機能科学研究科 教授)
時間:10時00分~11時30分(入室は30分前から)
会場:豊中市立中央公民館・視聴覚室
定員:30名(先着順)

No. 169

2023年2月4日(土)

「2つの透析療法

～どのようなものか?どちらにするか?～」

講師:北村 温美
(医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部/
腎臓内科 医師)
時間:14時00分~15時30分(入室は30分前から)
会場:豊中市立中央公民館・視聴覚室
定員:30名(先着順)

●お申し込み方法

2023年1月13日(金)14時~、先着順

豊中市立中央公民館に、お電話でお申込みください

☎ 06-6866-0555

(受付時間 平日9:00~17:15)

●会場へのアクセス

阪急宝塚線「曽根」駅から徒歩約300メートル、
徒歩約5分

●オンライン開催

※対面開催はありません
※Zoomを使用します

No. 167

2023年1月21日(土)

「風神雷神像の魅力に迫る」

講師:佐藤 優(文学研究科 博士後期課程)
時間:14時00分~15時30分
定員:50名(先着順)

No. 170

2023年2月18日(土)

「死なない細胞がもつ特別な仕組み —生き物が死ぬのはなぜだろう?」

講師:坂口 愛沙(全学教育推進機構 助教)
時間:14時00分~15時30分
定員:50名(先着順)

No. 171

2023年3月11日(土)

「漢方薬の研究データの見方」

講師:原田 和生(薬学研究科 准教授)
時間:14時00分~15時30分
定員:50名(先着順)

●お申し込み方法

大阪大学総合学術博物館のホームページ、または右のQRコードよりお申し込みください

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>



- ・ オンライン開催の締め切りは各カフェ開催日の1週間前までです。各カフェで異なりますのでご確認をお願いします。定員に達し次第締め切ります。
- ・ お申し込みの際、個人情報について利用目的以外の使用は一切いたしません。
- ・ オンライン開催での受講にはインターネット環境が必要です。利用時にかかる通信料は各自でご負担いただきます。当日の参加者のネットワークトラブルには対応致しかねますのでご了承ください。
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては開催方法が変更、または中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。



5. 大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター コラボレーション企画 豊中市立小中学生 理科展 サテライト展示

期 間：2022 年 12 月 3 日（土）～ 12 月 10 日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階セミナー室

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：豊中市教育委員会／豊中市教育センター

後 援：豊中市

【展示概要】

大阪大学総合学術博物館では毎年、豊中市立小中学生理科展に出品された作品の中で、特に優秀な作品を選び展示・表彰しています。今年の豊中市立小中学生理科展出品児童・生徒の自由研究作品約 69 点から選ばれた優秀作品 12 点を大阪大学総合学術博物館で展示しました。

【受賞作品】

- ・自然災害とその対策
（南部陽一郎賞・大阪府学生科学賞 受賞）
- ・自然布～苧麻編～
（大阪大学総合学術博物館長賞・大阪府学生科学賞 受賞）
- ・鳥の巣の研究
（大阪大学総合学術博物館長賞・大阪府学生科学賞 受賞）
- ・ラップの違いを PICK UP！
（大阪大学総合学術博物館待兼山賞・大阪府学生科学賞 受賞）
- ・土壌動物～観察日記～
（大阪大学総合学術博物館待兼山賞・大阪府学生科学賞 受賞）
- ・魚の体を調べよう！真鯛の解剖
（豊中市教育センターあすなろ賞・大阪府学生科学賞 受賞）
- ・フクロウの羽根で扇風機？～セレーション構造の消音効果～
（豊中市教育センターあすなろ賞・大阪府学生科学賞 受賞）
- ・生ごみを土に戻す
（大阪府学生科学賞 受賞）

- ・ 星が飛び出す！？ 3D 天球儀
(大阪府学生科学賞 受賞)
- ・ コアラと人は同じ指紋！？
(大阪府学生科学賞 受賞)
- ・ 千里川の微生物～2021 年調査データの継続研究～
(大阪府学生科学賞 受賞)
- ・ いろいろな物からカビが生える様子を観察しよう！！
(大阪府学生科学賞 受賞)

大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター

コラボレーション企画

とよなか しりつしょうちゅうがくせい りかてん
豊中市立小中学生 理科展

サテライト展示

今年^{ことし}の豊中市立小中学生理科展^{とよなか しりつしょうちゅうがくせい りかてん}に出品^{しゅっぴん}された児童^{じどう}・生徒^{せいと}の自由研究作品^{じゆうけんさく}約69点^{ひん}から選ばれた優秀作品^{ゆうしゅうさく}12点^{てん}を大阪大学総合学術博物館^{おおさかだいがく そうごうがくしゅつはくぶつかん}で展示^{てんじ}します！



大阪大学
公式マスコットキャラクター
ワニ博士

会場

大阪大学総合学術博物館
待兼山修学館 3階セミナー室

入場無料

作品展示

2022

12/3^土~12/10^土

開館時間 10:30 ~ 16:30

(入館は16:00まで) (4日(日)は休館)

問合せ先

〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町 1-13 大阪大学総合学術博物館

Tel. 06-6850-6714

アクセス

阪急電鉄 宝塚線 石橋阪大前駅 (徒歩10分)



大阪大学総合学術博物館

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：豊中市教育委員会／豊中市教育センター 後援：豊中市



▲会場アクセス MAP

※ご来館の際には公共交通機関をご利用ください。

豊中市立小中学生理科展 サテライト展示

大阪大学総合学術博物館では、豊中市立小中学生理科展に出品された作品の中で特に優秀な作品を選び、表彰をしています。今回、展示されている作品は以下の各賞を受賞された作品です。子供たちの努力の結晶をどうぞご覧ください。

南部陽一郎賞

自然災害とその対策



大阪大学総合学術博物館長賞

自然布 ～苧麻編～



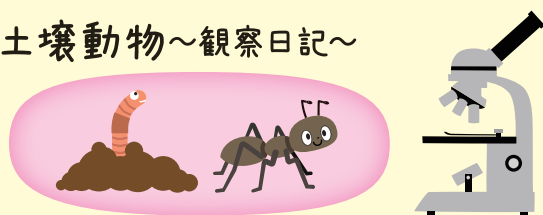
鳥の巣の研究



大阪大学総合学術博物館待兼山賞

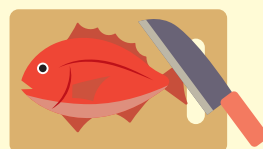


土壌動物～観察日記～



豊中市教育センターあすなろ賞

魚の体を調べよう! 真鯛の解剖



大阪府学生科学賞 作品名

- 生ごみを土に戻す
- 星が飛び出す!? 3D天球儀
- フクロウの羽根で扇風機?
～セレーション構造の消音効果～
- 鳥の巣の研究
- 生き物新聞 夏の特大号14
大スcoop! コアラと人は同じ指紋!?
- 土壌動物～観察日記～

- 自然布～苧麻編～
- ラップの違いをPICK UP!
- 自然災害とその対策
- 魚の体を調べよう! 真鯛の解剖
- 千里川の微生物
～2021年調査データの継続研究～
- いろいろな物から
カビが生える様子を観察しよう!!



豊中市
マチカネくん



大阪大学総合学術博物館

6. 教員活動報告

2022 年度 教員実績表

(2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日)

	館 長	永田 靖
【研究・教育部】		
資料基礎研究系	准 教 授	辻野 博文
資料先端研究系	教 授	上田 貴洋
	准 教 授	豊田 二郎
	准 教 授	宮久保圭祐
資料情報研究系	教 授	橋爪 節也
	助 教	横田 洋
【資料部】	講 師	伊藤 謙

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
2 学期・共通教育科目[全学部・全学年]	演劇学入門
1 学期・文学部	演劇学講義
2 学期・文学部	演劇学講義
1 学期・文学部	演劇学演習
2 学期・文学部	演劇学演習
1 学期・文学部	演劇学演習
1 学期・文学部	演劇学演習
2 学期・文学部	演劇学演習
1 学期・文学研究科修士課程	芸術環境論講義
1 学期・文学研究科修士課程	芸術環境論講義
通年・文学研究科修士課程	アート・プロデュース論演習
通年・文学研究科修士課程	修士論文作成演習
1 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学講義
2 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学講義
1 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
2 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
2 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
通年・文学研究科博士前期課程	芸術計画論演習
通年・文学研究科博士前期課程	修士論文作成演習
1 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊講義
2 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊講義
1 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊演習
2 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊演習
通年・文学研究科博士後期課程	演劇学博士論文作成演習

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
30 名	6 名	0 名

学位論文審査等（博士論文のみ。修士論文・卒業論文省略）

学位申請者および論文名	主査・副査の別
金潤貞 太田省吾の初期作品研究―「沈黙劇」の発端と展開をめぐって	主査
張佳能 さすらう大陸歌謡―昭和期の大衆音楽に関する貫戦史的研究―	副査

【研究活動】

学術論文・著書など

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
公衆電話と独語の演劇	永田靖	Arts&Media	Vol. 12, pp. 151-154	2022年7月
徴しの上を鳥が飛ぶ（共編著）	永田靖	大阪大学出版 会	94	2023年3月

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
大学はいかに劇場たりうるか	シンポジウム「演 劇と大学」基調講 演	2023年3月19日	
現代大阪演劇-震災、コロナ禍、越境	西洋戯劇・課堂学 術演講訊息	2023年3月9日	
Some Trends of Contemporary Theatres in Osaka	Korean National University of Arts, Drama School	5 th Dec. 2022	
スタニスラフスキー再考―演劇教育の観点から	日本演劇学会研究 集会基調講演	2022年10月1日	
Opening 'Shifting Centres, In the middle of Nowhere'	International Federation for Theatre Research, Asian Theatre WG, University of Iceland, Iceland	20 th March, 2022	

【学会等企画運営】

学会名	開催地	役割	期間
Asian Theatre WG Reykjavik Meeting, IFTR Annual Conference	University of Iceland, Reykjavik, Iceland	Co-Convener	20-24 June, 2022
The 10 th International Asian Theatre Studies Conference; Theatre in Age of Uncertainty	Taipei National University of Arts, Taipei, Taiwan	Co-Organizer	5-6, November, 2022

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（B）	永田靖	2022-2025	新規
大学を活用する文化芸術推進事業	永田靖	2022-2024	新規

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
「中之島に鮠を放つ：都市のアルケオロジー」『中之島デリバティブ』	大阪大学	人文学研究科・総合学術博物館	2022年7月31日、8月6日
「中之島に鮠を放つ-大学博物館を活用するアート人材育成プログラム」事業推進者	大阪大学、吹田メイシアター他	人文学研究科・総合学術博物館	2022年7月～2023年3月

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
中之島芸術センター運営協議会委員	2022年4月		継続
適塾記念会幹事	2018年4月	2023年3月	継続
埋蔵文化財調査室運営委員会	2012年4月	2023年3月	継続
図書館委員会委員	2015年8月	2023年3月	継続

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
大阪府市文化振興会議	委員	2020年4月～	継続
公益財団法人吹田市文化振興事業団メイシアター	理事	2016年6月～	継続
豊中市文化芸術振興会議	委員	2016年5月～	継続
兵庫県立尼崎青少年創造劇場ピッコロ劇団企画運営委員会	委員長	2011年4月～	継続
International Federation for Theatre Research, Asian Theatre Working Group	Convener	2008年7月～	継続
日本演劇学会	会長	2015年6月～	2022年6月まで

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
春～夏学期・薬学部	製剤サイエンス
春～夏学期・薬学部	基礎実習 2
春～夏学期・全学教育推進機構	学問への扉（博物館への招待）
夏学期・薬学研究科博士前期課程	生物物理化学特別講義
秋学期・全学教育推進機構（大学院）	実践ミュージアムコミュニケーション学
秋～冬学期・薬学部	基礎実習 1
秋～冬学期・全学教育推進機構	大阪大学の歴史
集中・薬学研究科博士前期課程	法臨床中毒学
通年・薬学研究科博士前期課程	創成薬学ゼミナール 1
年度跨り・薬学部	長期課題研究

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
9 名	－	－

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
死因診断学総論	大阪大学	2022 年 7 月 17 日
出張講義・実習	北野高校	2022 年 8 月 24 日、25 日

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行 年月
Amorphous silica nanoparticles (nSP50) exacerbate hepatic damage through the activation of acquired cell-mediated immunity	Shun-ichi Eto, Kazuma Higashisaka, Aoi Koshida, Kenta Sato, Mao Ogura, Miyuki Sakurai, <u>Hirofumi Tsujino</u> , Kazuya Nagano, Yasuo Tsutsumi	Nano Express	3(1) 015002-015002	2022

Identification of biomarkers of chronic kidney disease among kidney-derived proteins.	Kazuma Higashisaka, Sonoko Takeya, Haruhiko Kamada, Masanori Obana, Makiko Maeda, Mai Kabayama, Koichi Yamamoto, Nanan Ishida, Ryo Isaka, <u>Hirofumi Tsujino</u> , Kazuya Nagano, Noriyuki Tomiyama, Hiromi Rakugi, Yasushi Fujio, Kei Kamide, Yasuo Tsutsumi	Clinical proteomics	19(1) 3-3	2022
Silica Particles with Human Protein Corona Shows Sensitization Potential in the Human Cell Line Activation Test	Shun-ichi Eto, Aoi Koshida, <u>Hirofumi Tsujino</u> , Kazuya Nagano, Kazuma Higashisaka, Yasuo Tsutsumi	BPB Reports	5(1) 1-4	2022
Subvisible Particles Derived by Dropping Stress Enhance Anti-PEG Antibody Production and Clearance of PEGylated Proteins in Mice	Takaki Nakajima, Kazuya Nagano, Yuka Fukuda, Yu Ishima, Hiroko Shibata, Ryo Isaka, Tian-qi Zhang, Yuya Haga, Kazuma Higashisaka, <u>Hirofumi Tsujino</u> , Tatsuhiko Ishida, Akiko Ishii-Watabe, Yasuo Tsutsumi	Journal of Pharmaceutical Sciences	111(5) 1363-1369	2022
Alpha-crystallin B chains in trastuzumab-resistant breast cancer cells promote endothelial cell tube formation through activating mTOR	Lili Yang, Kazuma Higashisaka, Masafumi Shimoda, Yuya Haga, Naoki Sekine, <u>Hirofumi Tsujino</u> , Kazuya Nagano, Kenzo Shimazu, Yasuo Tsutsumi	Biochemical and biophysical research communications	588 175-181	2022

Osimertinib-tolerant lung cancer cells are susceptible to ferroptosis.	Hiroto Konishi, Yuya Haga, Ying Lin, <u>Hirofumi Tsujino</u> , Kazuma Higashisaka, Yasuo Tsutsumi	Biochemical and biophysical research communications	641 116-122	2022
Alpha-crystallin B chains enhance cell migration in basal-like 2 triple-negative breast cancer cells	L. Yang, K. Higashisaka, Y. Haga, H. Tsujino, K. Nagano, Y. Tsutsumi	PHARMAZIE	77(2)	2022

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
非晶質ナノシリカの鼻腔を介した吸入曝露が免疫系におよぼす影響の評価	日本薬学会第37年会	2022年5月	
化粧品中ナノマテリアルの安全性評価：獲得免疫系を介した非晶質ナノシリカのハザード解析とその発現機序解明	第47回日本化粧品学会	2022年6月	
活性酸素種の誘導を介した銀ナノ粒子による胎盤合胞体化の抑制	第49回日本毒学会	2022年6月	
環境中のマイクロプラスチックの劣化状態を考慮した細胞毒性評価	第49回日本毒学会	2022年6月	
ナノ粒子が胎盤細胞の合胞体化におよぼす影響評価	フォーラム2022	2022年8月	
胎盤形成段階の細胞合胞体化に着目したナノマテリアルの影響評価	第21回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム2022	2022年9月	
JKループに着目した Indoleamine 2,3-Dioxygenase 1 (IDO1) の基質認識機構の解明	第19回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム	2022年9月	
活性酸素種の生理的機能解明に向けた、高ペルオキシナイトライト消去能を持つサイトクロビン変異体の創製	第19回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム	2022年9月	優秀賞受賞
Redox control of human indoleamine 2,3-dioxygenase at nanostructured surface and its electrochemical analysis	第60回日本生物物理学会年会	2022年9月	
脂質ナノディスクを用いた CYP 代謝活性評価系の構築と酵素-脂質膜間相互作用の解析	第43回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム	2022年10月	

バルプロ酸による胎盤ホルモンが攪乱するメカニズム解明	第 72 回日本薬学会 会関西支部総会・ 大会	2022 年 10 月	
腫瘍随伴マクロファージに着目したフェロトーシス誘導時の抗腫瘍効果の検討	第 72 回日本薬学会 会関西支部総会・ 大会	2022 年 10 月	
環境中の表面性状を模擬したマイクロプラスチックの細胞毒性発現機序の解明	第 72 回日本薬学会 会関西支部総会・ 大会	2022 年 10 月	
シンシチオトロホブラスト層に着目した化学物質の胎盤透過性評価に適う <i>in vitro</i> モデル系の構築に向けた研究	日本薬物動態学会 第 37 年会	2022 年 11 月	
細胞周期の変動に着目した薬剤抵抗性がん細胞の分子機序解明	日本薬学会第 143 年会	2023 年 3 月	
非晶質ナノシリカの細胞内取り込みと経鼻投与後の動態評価	日本薬学会第 143 年会	2023 年 3 月	
乳がんの悪性転化におけるベンゾピレン誘導性細胞老化の分子機序解明	日本薬学会第 143 年会	2023 年 3 月	
化学療法剤抵抗性がん細胞の免疫逃避機構および細胞特性の解明	日本薬学会第 143 年会	2023 年 3 月	
表面劣化したマイクロプラスチックの細胞毒性発現機序の解明	日本薬学会第 143 年会	2023 年 3 月	
非晶質ナノシリカによる妊娠転帰への影響と炎症応答との関連追究	日本薬学会第 143 年会	2023 年 3 月	
ID02 の酵素活性と基質認識機構の解明	日本薬学会第 143 年会	2023 年 3 月	
インドールアミン 2,3-ジオキシゲナーゼの電気化学的な阻害アッセイ法の開発と阻害剤探索	日本薬学会第 143 年会	2023 年 3 月	
核酸医薬の品質・安全性評価における分析技術	レギュラトリーサイ エンス学会第 12 回学術大会	2022 年 9 月	シンポジスト
環境中の表面性状を模倣した劣化マイクロプラスチックの作製	日本薬学会第 143 年会	2023 年 3 月	シンポジウ ムコーディネ ーター

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進 研究事業 「食品への混入が懸念されている環境中のマイクロプラスチックの表面性状に着目した安全性研究」	辻野 博文	2021 年度～ 2023 年度	継続

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
第15回適塾講座 洪庵の取り組んだ薬学 ―その発展	光世証券	適塾記念 センター	2022 年 9 月 29 日（講師） 10 月 27 日、 11 月 24 日（コ ーディネー ター）
箕面市立船場生涯学習センター 秋の生涯学習講座 洪庵の取り組んだ薬学 ―その発展	箕面市立船場生涯 学習センター	箕面市立船場生 涯学習センター	2022 年 12 月 6 日

学内の各種委員等

委員会あるいは WG 名	就任年月	退任年月	継続/新規
アーカイブズ運営委員会	令和 2 年 10 月		継続
適塾記念センター兼任教員	令和 3 年		継続
豊中地区事業安全衛生委員会委員衛生管理者	令和 3 年 4 月	令和 5 年 3 月	継続
安全管理者	令和 3 年 6 月	令和 5 年 3 月	継続
ダイバーシティ&インクルージョンセンター 会議委員及び兼任教員	令和 2 年 4 月		継続

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
日本薬学会物理系薬学部会	若手世話人	令和 3 年～	継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・共通教育・専門基礎科目（理学部・1 年生）	化学基礎論 C（共担）
2 学期・共通教育・専門基礎科目（理学部・1 年生）	化学基礎論 D（共担）
2 学期・理学部化学科・3 年生	量子化学 2（共担）
通年・理学部化学科・4 年生	化学特別研究
通年・理学部化学科・4 年生	化学文献調査
1 学期・ 理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学(I)（共担）
1 学期・ 理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(I)（共担）
1 学期・ 理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(II)（共担）
2 学期・ 理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(I)（共担）
2 学期・ 理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(II)（共担）
通年・理学研究科博士後期課程（化）	核磁気共鳴分光学特別セミナーI
通年・理学研究科博士後期課程（化）	核磁気共鳴分光学特別セミナーII
通年・理学研究科博士後期課程（化）	核磁気共鳴分光学特別セミナーIII

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
1 名（理学研究科化学専攻）	0	
2 名（理学部化学科）	0	

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
Benny Wahyudianto （理学研究科化学専攻） Characteristics of Porous Crystalline Frameworks Composed of Nonanuclear $\text{Au}^{\text{I}}\text{Cd}^{\text{II}}_3$ Complex Molecules (Au ^I Cd ^{II} ₃ 九核錯分子からなる多孔質結晶性フレームワークの特性)	副査
Cons Bacilla Ana Carolina （信州大学大学院総合医理工学研究科） Investigation of microstructures of confined inorganic gases in carbon micropores (カーボンミクロ孔にとじ込められた無機分子の微視的構造の検討)	副査

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Proton conduction in tetra-n-butylammonium bromide semiclathrate hydrate	Jin Shimada, Yuta Takaoka, <u>Takahiro</u> <u>Ueda</u> , Atsushi Tani, Takeshi Sugahara, Katsuhiko Tsunashima, Hirohisa Yamada, Takayuki Hirai	Solid State Ionics	393, 116188	2023.03

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
多孔性配位高分子 ZIF-8 のベンゼン吸着に対する 配位子置換基効果	第 35 回日本吸着 学会研究発表会・ JA 長野県ビル ア クティーホール	2022. 11. 10-11	
^2H -NMR で見る活性炭素繊維のマイクロ細孔中におけ る水の動的挙動	第 35 回日本吸着 学会研究発表会・ JA 長野県ビル ア クティーホール	2022. 11. 10-11	
多孔性配位高分子 ZIF-8 のベンゼン飽和吸着量に対 する配位子置換基効果	第 73 回コロイド および界面化学討 論会・広島大学 東 広島キャンパス	2022. 9. 20-22	
ZIF-8 に対するベンゼンおよび 6 員環脂環式炭化水 素の物理吸着挙動の速度論的研究	日本化学会第 103 春季年会・東京理 科大 野田キャン パス	2023. 3. 22-25	

研究（学会）発表の世話人、座長、受賞審査など

学会・研究集会など（場所）	年月日	件数	備考
第 35 回日本吸着学会研究発表会 招待講演・2022 年度学術賞受賞講演	2022 年 11 月 10 日	1 件（座長）	
日本化学会第 103 春季年会 学生講演賞審査員（コロイド・界面化学分野）	2023 年 3 月 25 日	3 件	

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
大阪大学理学部化学科新入生研修・大阪大学総合学術博物館の教育・研究・社会貢献	南部陽一郎ホール	大阪大学 理学部化学科	2022 年 4 月 16 日

団体見学の説明等

団体名（人数）	説明日	備考
大阪大学理学部化学科新入生研修 見学	2022 年 4 月 16 日	

学内の各種委員等

委員会あるいは WG 名	就任年月	退任年月	継続/新規
総合図書館運営委員会委員	2012 年 4 月	2023 年 3 月	継続
総合図書館図書選定小委員会委員	2012 年 4 月	2023 年 3 月	継続
大阪大学創立 90 周年・大阪外国語大学創立 100 周年記念事業 記念出版・展示実行委員会委員	2017 年 1 月	2023 年 3 月	継続

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
日本吸着学会 運営委員会	運営委員長	2019 年 4 月～ 2023 年 3 月	継続
日本吸着学会	理事（企画担当）	2019 年 4 月～ 2023 年 3 月	新規
豊中市学校教育審議会委員	副委員長	2019 年 4 月～ 2022 年 5 月	継続
大阪大学生協	教職員理事	2014 年 5 月～ 2022 年 5 月	継続
大阪大学生協	教職員常任理事	2017 年 5 月～ 2022 年 5 月	継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
春学期・工・1	化学基礎論 AI
夏学期・工・1	化学基礎論 AII
春～夏学期・理・M1	核磁気共鳴分光学(I)
夏学期・理・M1	核磁気共鳴分光学(I)

学内の各種委員等

委員会あるいは WG 名	就任年月	退任年月	継続/新規
部局 CSIRT	2018 年 4 月		継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
春夏学期・（理・経・工・文）学部・1年	博物館への招待（学問の扉）
秋冬学期・工学部・1年	化学基礎論B
秋学期・全研究科・全学年	実践ミュージアムコミュニケーション学

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
湯川記念室運営委員会	2010年4月		継続
部局安全保障輸出管理アドバイザー	2022年4月	2023年3月	継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
春夏・全学教育推進機構	東洋美術史
秋冬・文学部	日本美術史講義
秋冬・博士前期課程	日本美術史講義
秋冬・博士前期課程	世界のなかの日本美術
秋冬・博士後期課程	日本美術特殊講義
春夏・文学部	日本美術史演習
秋冬・文学部	日本美術史演習
春夏・博士前期課程	日本美術史演習
秋冬・博士前期課程	日本美術史演習
春夏・博士後期課程	日本美術史特殊演習
秋冬・博士後期課程	日本美術史特殊演習
通年・文学部	日本美術史演習
通年・博士前期課程	日本美術史演習
通年・博士後期課程	日本美術史特殊演習
春夏・文学部	東洋美術史演習
秋冬・文学部	東洋美術史演習
通年・文学部	博物館学(学内実習)
通年・文学部	芸術計画論演習
春夏・博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習
秋冬・博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習
春夏・博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習
秋冬・博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習
通年・修士課程	芸術計画論演習
社会人・学生	徴しの上を鳥が飛ぶー文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
全 27 名 博士後期課程：11 名 博士前期課程：8 名 学部 4 年生：7 名 学部 3 年生：1 名 (このうち、留学生は 2 名)	2 名	0 名

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
小松亜希子 修士論文 「小村雪岱の画風変遷と女性表象に関する考察」	主査
宇野茉莉花 修士論文 「昭和初期における浪華写真倶楽部の写真表現—小石清《初夏神経》の成立と戦前の写風展開を中心に—」	主査
林下真奈 修士論文 「立石鐵臣の渡台期—国画会と民藝運動の視点から—」	主査
柘植 健生 修士論文 「中国南北朝時代仏教美術とその周辺」	副査
小野 雄希 修士論文 「近世初期の檜原図屏風」	副査

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
古美術研究旅行	愛知県立芸術大学	2022 年 10 月
美術館論	放送大学	2022 年 11 月
古美術研究旅行	広島市立大学	2022 年 11 月

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
「＼なにわ舟遊 ODYSSEY」で目指したもの エコ・ミュージアムを巡るアートの旅」	橋爪節也	永田靖, 山崎達哉 編著 『大阪大学総合学術博物館叢書 微の上を鳥が飛ぶ』大阪大学出版会		2023 年 3 月
「大大阪と画家たち 第6回 「浪華宝船会」と趣味人たち—近代的表現を「宝船」に求めて」	橋爪節也	『やそしま』関西・大阪 21 世紀協会、上方文化芸能運営委員会	第 15 号 41～123 頁	2021 年 12 月

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
「開館一周年記念シンポジウム 大学ミュージアムと文化財 —教育と研究の成果を活用する—」	『武庫川女子大学附属総合ミュージアム紀要・年報』三号（武庫川女子大学附属総合ミュージアム）	2023 年
「万博遺産 第 7 回 as time goes by…… タイムカプセルの中にカプセルがもう一つ	『CEL』Vol.131 「【特集】持続可能な未来を考える」大阪ガス エネルギー・文化研究所	2022 年 9 月
「万博遺産 第 8 回 ローマの商業神、万国博に飛来す。—街角に跳躍するメルクリウス像」	『CEL』Vol.132 「【特集】空き家・空き地とソーシャルデザイン」大阪ガス エネルギー・文化研究所	2023 年 3 月
「新おおさか KEY わーど」第 23 回 「三人寄れば“サロン”誕生？ 京都の美術館で大阪文化の精髓を見る」	「いちょう並木」No.466、表紙と 3 頁、 大阪市生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行	2022 年 4 月 10 日

「新おおさか KEY わーど」第 24 回「大阪文化を濃縮した街と歴史 先生のお便りはいつも青インク」	「いちよう並木」No.467、表紙と 3 頁、大阪市生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行	2022 年 5 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 25 回「展覧会での実験もおもしろく 文化芸術の発信拠点・中之島を探る」	「いちよう並木」No.468、大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と 3 頁	2022 年 6 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 26 回「大阪人の橋梁愛はハンドメイド 夢の浮橋、組み立てはたいへんですが・・・」	「いちよう並木」No.469、大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と 3 頁	2022 年 7 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 27 回「むかしより何回この橋を渡ったことか 愛すべき心斎橋の再発見」	「いちよう並木」No.470、大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と 3 頁	2022 年 8 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 28 回「夏祭り再開にあつまる若者たち どのように大阪を未来へ伝えるだろう」	「いちよう並木」No.471、大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と 3 頁	2022 年 9 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 29 回「西照菴は夕日の名所 遠くに天保山と、超巨大なみおつくし」	「いちよう並木」No.472、大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と 3 頁	2022 年 10 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 30 回「埋め立てられ、姿を消した後も 川は様々な物語に連なっていく」	「いちよう並木」No.473、大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と 3 頁	2022 年 11 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 31 回「浄瑠璃から歌舞伎、落語へ 忠臣蔵も大阪人の手で面白い話に」	「いちよう並木」No.474、12 月・1 月合併号、大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と 3 頁	2022 年 12 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 32 回「“文楽”に挑む。ー古典芸能とアートのコラボレーションー」	「いちよう並木」No.475、大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と 3 頁	2023 年 2 月 10 日
「新おおさか KEY わーど」第 33 回「送迎自動車でダンス・パレスへ 南地ゆかりの“ほりとらさん”も登場」	「いちよう並木」No.476、大阪市生涯学習センター、大阪市教育委員会発行 表紙と 3 頁	2023 年 3 月 10 日

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
講演会 「描かれた大大阪 近代都市景観と画家たち」	大阪中之島美術館	2022 年 4 月 23 日	
講演 第 1 回府民講座「1970 年の大阪万博をめぐる芸術文化」	大阪府立図書館ライティホール京工芸繊維大学図書館	2022 年 5 月 28 日	
基調講演「なにわの画家を知るための KEY ワード ～シン・大阪画壇を語る～」	大阪美術倶楽部	2023 年 2 月 25 日	

常翔学園創立 100 周年記念 常翔歴史館特別企画展シンポジウム 「大阪の都市形成過程と大阪人気質（社会・文化の変遷を中心に）」	大阪工業大学梅田キャンパス	2022 年 9 月 11 日	
講演会 はびきの市民大学「アートアイランドの復活― 大大阪」の文化芸術発信センター中之島」	羽曳野市生活文化 情報センター (LIC はびきの	2022 年 12 月 3 日	

報道

タイトル	場所	年月日	備考
「新日曜美術館 ユニークな肖像画が語る異色の人物たち」	NHK 「日曜美術館」	2022 年 5 月 29 日放送	テレビ出演

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
シンポジウム「歴史の可能性を可視化する―再現される大阪市中央公会堂コンペ案」	大阪市中央公会堂	大阪大学 総合学術博物館	2022 年 6 月 25 日
第三回枚方市展講評	枚方市総合文化芸術 センター	枚方市	2022 年 12 月
展覧会企画『秋季特別展 妖艶VS風流 少シオモシロ展～美人画やら文人画やら／大阪画壇コレクション～』展	公益財団法人天門美 術館	公益財団法人 天門美術館	2022 年 5 月
展覧会企画『アートギャラリーオープニング企画展 ニューCLASSIC～アートの魅力 時をつなぐ、時を超えて～』展（杉江みどり展・木村光佑展）	ホテルロイヤルクラ シック大阪	ホテルロイヤル クラシック大阪	2022 年 12 月
展覧会企画『アートギャラリーオープニング企画展『ニューCLASSIC～アートの魅力 時をつなぐ、時を超えて～』展（深尾竜騎展・Smille 展・内藤晶展・chitose chitose 展）	ホテルロイヤルクラ シック大阪	ホテルロイヤル クラシック大阪	2022 年 1 月

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
大正イマジュリイ学会	常任委員		継続
一般財団法人懐徳堂	評議員		継続
大阪市市民表彰審査会	臨時委員	各年毎に就任	継続
大阪市文化財保護審議委員	委員	2020～	新規
大阪市中央公会堂	文化財保護アドバイザー		継続
吹田市立博物館協議会	委員（委員長）		継続

八尾市今東光記念館	展示アドバイザー		継続
NPO 大阪美術市民会議	理事		継続
田辺市立美術館協議会	委員	2017～	継続
財団法人・天門美術館評議委員会	評議員	2016～	継続
枚方市美術施設運営委員協議会	委員	2021～	継続
第三回枚方市展	審査委員	2021	継続
毎日放送ラジオ放送審議委員会	放送審議委員	2021～	新規
芳泉文化財団地域文化活性化助成	審査委員	2022～	新規

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
通年・文学部・2、3、4年	博物館学（学内実習）
冬学期・全学教育推進機構（大学院）	実践ミュージアムコミュニケーション学
春～夏学期・文学部・2、3、4年	演劇学講義
春～夏学期・文学部・2、3、4年	芸術環境論講義
春～夏学期・文学研究科・博士前期課程	演劇学講義
春～夏学期・文学研究科・博士前期課程	芸術環境論講義
春～夏学期・文学研究科・博士後期課程	演劇学特殊講義

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
映画の歴史	大手前大学	2022年9月～2023年3月

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
「演劇と展覧会―大阪大学総合学術博物館の取り組みについて―」	横田洋	『演劇学論叢』	22号、 159～173頁	2023年3月

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
『乙女文楽-開花から現在まで』	乙女文楽研究会	大阪大学出版会	108頁	2023年3月

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
大阪大学総合学術博物館20周年記念シンポジウム 「大阪大学総合学術博物館20年の歩み」	大阪大学	2022年 10月29日	

報道

タイトル	場所	年月日	備考
「岐路の風景 昭和初期に大阪で開花「乙女文楽」」	毎日新聞夕刊 大阪本社	2022年 10月1日	

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「人形資料に基づく乙女文楽の芸能史的発展研究」	林公子 (近畿大学)	2019 年度～ 2022 年度	継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
通年・文学部・3回生以上	博物館学(学内実習)
1回生	大阪大学の歴史

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Purification of Emu IgY for Therapeutic and Diagnostic Use Based on Monoclonal Secondary Antibodies Specific to Emu IgY	Ken ITO 他12名 (7番目)	Biological and Pharmaceutical Bulletin	Volume 45 Issue 8 Pages 1022-1026	2022年4月

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
大阪大学総合学術博物館資料部の活動	豊中地区研究交流会	2022年 11月14日	

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
カンキツの起源と分類の再構築 - 田中長三郎のさく葉標本と研究ノート of 解析 - 研究課題	分担	2020-2023	継続
Multidisciplinary Science としての本草学の再構成	代表	2023-2025	新規
Di-CHiLD	分担	2022-2023	新規

寄付

寄付名	寄付者名	金額	受入年月	継続/新規
大阪大学未来基金	吟杏会	500,000 円		

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
豊中地区研究交流会委員会	2020年4月		継続

7. 資料

掲載項目

- ・ 2022 年度の主な活動一覧
- ・ 入館者数集計結果一覧
- ・ 団体見学一覧
- ・ 関連記事一覧
- ・ 寄贈図書一覧
- ・ 館内配置図

2022 年度の主な活動一覧

期 間	主な活動
2022 年	
4月28日～7月30日	大阪大学総合学術博物館 第16回特別展「モダン中之島コレクション “大大阪” 時代の文化芸術発信センター」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、共催：大阪大学大学院人文科学研究科、大阪大学大学院工学研究科 協力：大阪府中央公会堂、大阪歴史博物館、大阪くらしの今昔館、株式会社竹中工務店、株式会社ロイヤルホテル、大阪大学医学部医学史料展示室 後援：関西経済同友会) 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
6月25日	特別展関連シンポジウム「歴史の可能性を可視化するー再現される大阪府中央公会堂コンペ案」を開催した。(登壇者：大阪大学総合学術博物館・教授 橋爪 節也 大阪歴史博物館・学芸員 船越 幹央氏 大阪大学大学院工学研究科・教授 木多 道宏氏 大阪大学総合学術博物館・研究支援推進員 波瀬山 祥子 会場：大阪府中央公会堂・3階中集会室)
7月2日	特別展関連イベント ミュージアムレクチャー「中之島に開花した近代建築」を開催した。(講師：阿部 文和氏 (大阪歴史博物館・学芸員) 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室)
7月23日	特別展関連イベント ミュージアムレクチャー「中之島を楽しもう」を開催した。(講師：福田 知弘氏 (大阪大学大学院工学研究科・准教授) 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室)
10月24日～12月17日	大阪大学総合学術博物館 (MOU) 創立20周年記念展「地域に生き世界に伸びる MOU 収蔵品展ー創立からもう20年ー」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市 共催：豊中市市民ホール等指定管理者 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
10月29日	大阪大学総合学術博物館創立20周年記念シンポジウム「学びと遊びをつなぐものー21世紀における大学博物館の役割」を開催した。(登壇者：挨拶「これからの大阪大学総合学術博物館へ向けて」 西尾 章治郎氏 (大阪大学総長) 永田 靖 (大阪大学総合学術博物館長) 講演「電脳化時代の博物館」 井上 章一氏 (国際日本文化研究センター所長) 「大学と大学ミュージアムー「京都・大学ミュージアム連携」体験を中心に」 並木 誠士氏 (京都工芸繊維大学特定教授・同大学美術工芸資料館長) 「科学者を世に」 橋本 幸士氏 (京都大学大学院理学研究科 物理学・宇宙物理学専攻教授) 「[〇〇〇〇]のある私たちの暮らし」 徳田 明仁氏 (愛媛大学ミュージアム准教授・同大学広報室副室長、大阪大学総合学術博物館招へい准教授) 「大阪大学総合学術博物館20年の歩み」 横田 洋 (大阪大学総合学術博物館助教) 伊藤 謙 (大阪大学総合学術博物館講師) パネルディスカッション パネリスト 井上 章一氏、並木 誠士氏、橋本 幸士氏、徳田 明仁氏 コーディネーター：永田 靖 会場：大阪大学会館講堂)
12月2日	大阪大学総合学術博物館創立20周年記念展関連イベント ミュージアムレクチャーを開催した。「MOU アートの実験室ー挑戦する大学博物館ー」(講師：橋爪 節也 (大阪大学総合学術博物館 教授 会場：豊中市立文化芸術センター 展示室)
12月3日～12月10日	大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター コラボレーション企画「豊中市立小中学生理科展サテライト展示」を開催した。(主催：豊中市教育センター 共催：大阪大学総合学術博物館 後援：豊中市 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
12月9日	大阪大学総合学術博物館創立20周年記念展関連イベント ミュージアムレクチャーを開催した。「マチカネワニと歩んだ20年」(講師：江口 太郎氏 (大阪大学 名誉教授) 会場：豊中市立文化芸術センター 多目的室)
2023 年	
1月21日	サイエンスカフェ@オンライン No.167「風神雷神像の魅力に迫る」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 豊中市立中央公民館 講師：大阪大学文学研究科 博士後期課程 佐藤 優氏 会場：オンライン開催)
1月28日	サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館 No.168「細胞の中のごみ処理システム」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 豊中市立中央公民館 講師：生命機能科学研究科 教授 池田 史代氏 会場：豊中市立中央公民館・視聴覚室)

期 間	主な活動
1月31日～3月4日	展覧会「くるまいすで GO! どうする★バリバリア」を開催した。(主催：大阪大学大学院人文学研究科 大阪大学総合学術博物館 連携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 大阪中之島美術館 淨るりシアター 公益財団法人吹田市文化振興事業団(メイシアター) 豊中市都市活力部魅力文化創造課 兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター) 公益財団法人 箕面市メイプル文化財団 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
2月4日	サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館 No.169「2つの透析療法～どのようなものか？どちらにするか？～」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 豊中市立中央公民館 講師：医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部／腎臓内科 医師 北村 温美氏 会場：豊中市立中央公民館・視聴覚室)
2月18日	サイエンスカフェ@オンライン No.170「死なない細胞がもつ特別な仕組みー生き物が死ぬのはなぜだろう？」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 講師：大阪大学全学教育推進機構 助教 坂口 愛沙氏 会場：オンライン開催)
3月11日	サイエンスカフェ@オンライン No.171「漢方薬の研究データの見方」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 講師：大阪大学薬学研究科 准教授 原田 和生氏 会場：オンライン開催)

入館者数集計結果一覧

・2022年度 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 入館者数

第16回特別展

(単位：人)

会期：4月28日（木）～7月30日（土）

入館者数：3,792人

創立20周年記念展

会期：10月24日（月）～12月17日（土）

入館者数：2,070人

くるまいすでGO! どうする★バリバリア展

会期：1月31日（火）～3月4日（土）

入館者数：1,203人

休館日：日曜・祝日

ただし、下記の日が開館

5月3日（祝）、5月4日（祝）、11月6日（日）

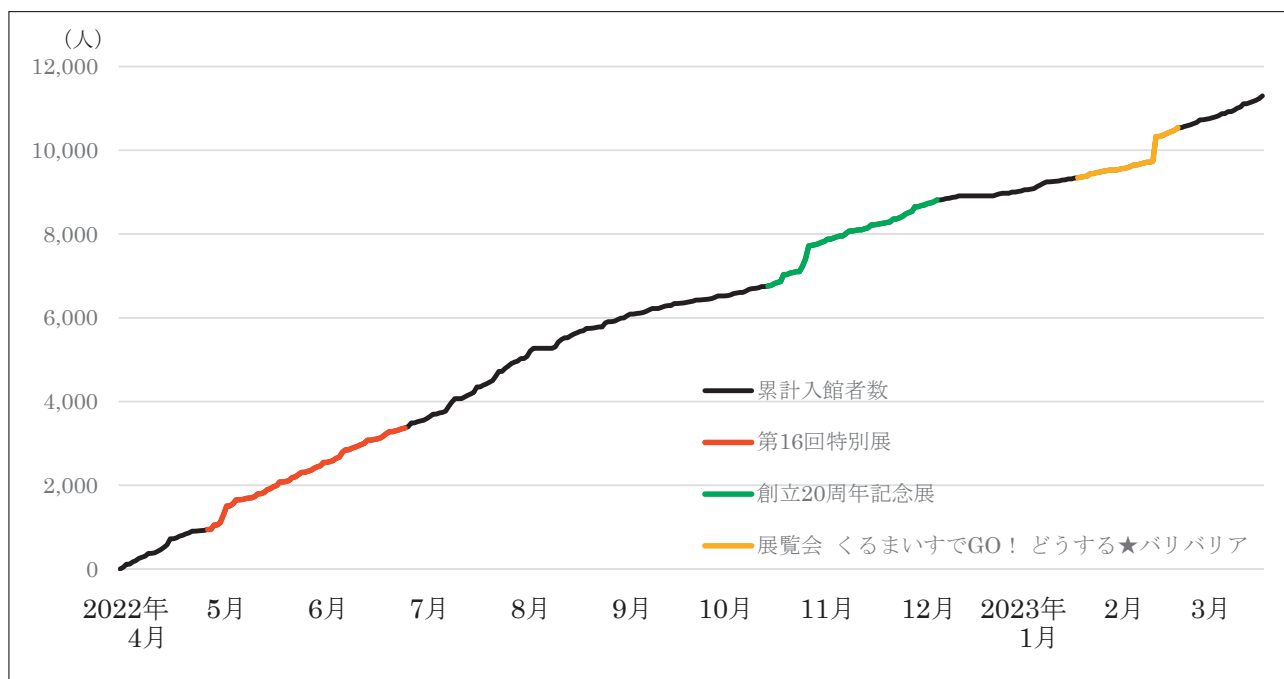
夏季休業：

8月11日（木）～8月16日（火）

年末年始休業およびメンテナンス休館：

12月26日（月）～2023年1月4日（水）

	入館者数
2022年4月	1,050
5月	1,309
6月	1,007
7月	1,350
8月	1,063
9月	616
10月	671
11月	1,198
12月	646
2023年1月	437
2月	1,039
3月	914
合計	11,300



団体見学一覧

No.	月 日	曜 日	団 体 名	人 数	説明館員
2022 年					
1	4 月 16 日	土	大阪大学理学部化学科 新入生研修会	73	上田
2	5 月 13 日	金	いきいきシニアゼミナール（IK ゼミナール）	21	
3	5 月 17 日	火	NPO 法人 豊中市民カレッジ	38	江口
4	5 月 21 日	土	東谷歩くクラブ	20	
5	5 月 27 日	金	NPO・とよなか歴史と文化の会	24	
6	6 月 4 日	土	スポーツとまなびの広場 SAIYO	26	
7	6 月 8 日	水	ありく会	30	
8	6 月 10 日	金	シニア自然大学そら組	79	
9	6 月 18 日	土	豊中市 都市計画推進部 都市計画課	13	
10	6 月 24 日	金	箕面自由学園小学校	35	
11	7 月 2 日	土	豊中市都市活力部魅力文化創造課 文化芸術推進係	13	
12	7 月 14 日	木	上宮高校	54	
13	7 月 14 日	木	滝川第二高校	38	
14	7 月 15 日	金	近大附属高校	80	
15	7 月 29 日	金	滝川高校	31	
16	8 月 1 日	月	北摂三田高校	45	
17	8 月 2 日	火	帝塚山学院泉ヶ丘中学校	26	
18	8 月 3 日	水	香川県立高松第一高校	36	
19	8 月 23 日	火	明星中学校	17	
20	9 月 2 日	金	三重県立津西高校	77	
21	10 月 13 日	木	島根県立隠岐高等学校	28	
22	10 月 17 日	月	福井県立高志高等学校	26	
23	11 月 18 日	金	大阪行政相談委員協議会 北摂支部	30	
24	11 月 25 日	金	原田介護予防センター・とよなか健康大学 原田校	5	
25	12 月 3 日	土	とねやま地域こども教室	19	
26	12 月 6 日	火	とよなか健康大学 4 期生	13	
27	12 月 7 日	水	和歌山県古佐田丘中学校	40	
28	12 月 10 日	土	奈良学園登美ヶ丘高等学校	32	
2023 年					
29	1 月 10 日	火	自敬寺護持会 歩こう会	15	
30	1 月 19 日	木	(社) アリスの家	18	
31	3 月 11 日	土	奈良学園登美ヶ丘高等学校	26	
32	3 月 23 日	木	パナソニック松愛会河内和泉支部	38	
33	3 月 24 日	金	福岡県立八幡高等学校	11	

関連記事一覧

新聞

※教員関連の記事は「6. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載日	曜日	掲載紙名	内容
2022 年				
1	6 月 10 日	金	毎日新聞 朝刊	特別展「モダン中之島コレクション」
2	6 月 25 日	土	日経新聞 朝刊	なんでもランキング 大学博物館
3	7 月 6 日	水	読売新聞 朝刊	特別展「モダン中之島コレクション」
4	7 月 14 日	木	読売新聞 夕刊	特別展「モダン中之島コレクション」

その他 刊行物

※教員関連の記事は「6. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載誌 / 発行	発行日 / 巻 / 号 他	内容
1	会誌「まちなみ」/ 大阪府建築士事務所協会	2022 年 4 月号	真空管計算機・電子顕微鏡・マチカネワニ全身骨格
2	手作り新聞 瓦版や / 「瓦版や」	2022 年 10 月号 No.335	創立 20 周年記念展 Mou 収蔵品展
3	豊中手帖 2022/ 菊田印刷	2022 年 10 月	発掘現場・マチカネワニ骨格模型画像
4	豊中市 PR 冊子 / 豊中市役所都市活力部 魅力文化創造課		マチカネワニレプリカ

インターネット

No.	掲載ホームページ	内容
1	PaperC	モダン中之島コレクション展
2	水都大阪	モダン中之島コレクション展
3	水都大阪	Youtube チャンネル モダン中之島コレクション展
4	若者向けに中之島の魅力発信 Project	モダン中之島コレクション展
5	水都大阪	Youtube チャンネル 創立 20 周年記念展 Mou 収蔵品展

ラジオ・テレビ 等

No.	番組名 / 放送局	放送日時	内容
1	WEEKLY/ トピックス J:COM	2022 年 11 月 12 日～	創立 20 周年記念展 Mou 収蔵品展 常設展
2	生中継 『LIVE ニュース』 J:COM	2022 年 11 月 11 日	創立 20 周年記念展 Mou 収蔵品展 常設展

寄贈図書一覧

No.	寄贈者	書名
1	大山崎町歴史資料館	大山崎町歴史資料館 館報 第 27 号
2	大阪市立大学 大学史資料室	わたしたちの大阪市立大学 大阪の歴史と共に
3	長野県埋蔵文化財センター	信州の遺跡 第 18 号
4	敦賀市立博物館	敦賀市立博物館年報第 7 号
5	大阪くらしの今昔館	あんじゅ 90 号
6	熊本大学五高記念館	昭和期の第五高等学校 調査報告 (四) 戦争
7	九州産業大学美術館	令和 2・3 年度 九州産業大学美術館年度報告書 No.10
8	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	向井家文書目録
9	関西大学 なにわ大阪研究センター	なにわ大阪研究 第 4 号
10	大阪狭山市教育委員会事務局	狭山池シンポジウム 2020 記録集「北条氏と豊臣政権－狭山藩の成立過程を追う－」
11	山口大学埋蔵文化財資料館	山口大学構内遺跡調査研究年報 XIX
12	山口大学埋蔵文化財資料館	山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成 29・30 年度－
13	山口大学埋蔵文化財資料館	館蔵資料調査研究報告書 7 見島ジーコンボ古墳群 東部域出土資料調査報告
14	島本町教育委員会事務局	島本町文化財調査報告書 第 41、42 集
15	帝京大学総合博物館	帝京大学総合博物館 帝京大学創基 90 年記念
16	国立民族学博物館	邂逅する写真たち－モンゴルの 100 年前と今
17	上郡町教育委員会	上郡町埋蔵文化財発掘調査報告 3「赤松居館跡 1 範囲確認調査報告書」
18	上郡町教育委員会	上郡町埋蔵文化財発掘調査報告 4「赤松居館跡 1 確認調査報告書」
19	上郡町教育委員会	令和 3 年度上郡町郷土資料館特別展図録「地中からみたかみごおりの歴史」
20	慶應義塾ミュージアム・コモンズ	ミュージアム・コモンズ 年報 1 号
21	茨木市教育委員会	茨木市立文化財資料館館報 第 7 号
22	大阪城天守閣	大阪城天守閣紀要 第 46 号
23	武庫川女子大学付属総合ミュージアム	武庫川女子大学付属総合ミュージアム 紀要・年報 第 2 号
24	八尾市立歴史民俗資料館	令和 3 年度特別展図録『八尾の鉄道 開通ものがたり』
25	京都国立近代美術館	「感覚をひらく－新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」
26	武蔵野美術大学	大辻清司アーカイブ フィルムコレクション 第 6 巻「クロス・トーク / インターメディア」
27	茨木市教育委員会	第 82 集 令和 3 年度茨木市埋蔵文化財発掘調査概法
28	刈谷市歴史博物館	刈谷市歴史博物館 研究紀要第 2 号
29	大阪大学全学教育推進機構	大阪大学高等教育研究 10
30	大阪公立大学 大学史資料室	恒藤恭「市大学長時代日記 / 講演等レジュメ」
31	吹田市立博物館	吹田市立博物館開館 30 周年記念 「出口座と阪本一房－現代人形劇の継承と発展－」図録
32	吹田市立博物館	吹田市立博物館 博物館報 第 22 号
33	金沢大学資料館	金沢大学資料館紀要
34	明治大学博物館	明治大学博物館 + 南山大学人類学博物館 合同シンポジウム報告書
35	茨木市教育委員会	第 81 集 宿九庄遺跡 1 / 深見遺跡の発掘調査
36	大阪大学大学院文学研究科 芸術学・芸術史講座	フィロカリア
37	帝京大学 総合博物館	帝京大学総合博物館 館報 第 4 号
38	笹岡市立竹喬美術館	笹岡市立竹喬美術館友の会会報 No.55
39	全国科学博物館振興財団	ミルシル No.3
40	大阪大学大学院文学研究科 言語文化学専攻	言語文化研究 48
41	東京大学資料編纂所	東京大学資料編纂所附属 画像史料解析センター通信 第 96 号
42	大阪古典会	古典籍善本展観図録
43	泉佐野市立 歴史観いずみさの	歴史通信 いずみさの
44	多摩美術館芸術人類学研究所	Art Anthropology 17 号 多摩美術館芸術人類学研究所
45	西南学院大学博物館	西南学院大学博物館研究紀要 / 博物館ニュース vol.45
46	日本書芸院	書くよろこび
47	刈谷市歴史博物館	中手山貝塚発掘調査報告書

No.	寄贈者	書名
48	潮音堂	創業二十五周年記念 潮音堂 書蹟・典籍 目録 精選
49	滋賀大学経済学部附属史料館	滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要 第55号
50	和歌山市立博物館	研究紀要第36号 / 和歌山市史研究第49号
51	仙台市博物館	仙台市博物館 館蔵名品図録
52	帝塚山大学考古学研究所	帝塚山大学考古学研究所研究報告 / 帝塚山大学付属博物館報
53	一般財団法人アジア太平洋研究所	APIR NOW 第31号
54	サラヤ株式会社	浪華百景
55	「虫の声」参加店一同	虫の声 - 第二号 -
56	神奈川県生命の星・地球博物館	自然科学のとびら
57	和歌山県立博物館	研究紀要
58	徳川美術館	葵 第123号
59	三重県総合博物館	みえんしす 37号
60	全国科学博物館振興財団	ミルシル No.4
61	京都市学校歴史博物館	博物館年報 第23号・京都市学校歴史博物館紀要 第9号
62	たばこと塩の博物館	たばこと塩の博物館 年報
63	熊本博物館	熊本博物館 館報・能楽伝承
64	京都市芸術文化協会	藝文京
65	京都大学総合博物館	京都大学総合博物館年報 令和3年度(2021年度)
66	国立歴史民俗博物館	イギリスで在外の日本コレクションを考える 対話型展示構築支援事業報告
67	国立歴史民俗博物館	異文化を伝えた人々Ⅲ シーボルトの日本博物館
68	国立歴史民俗博物館	海外で《日本》を展示すること 在外資料調査研究プロジェクト報告書
69	金沢大学資料館	サイエンスイラストレーションで魅せる古生物学
70	松代文化施設等管理事務所(真田宝物館)	殿様は俳諧がお好き 松代藩六代藩主真田幸弘の連句を読む
71	松代文化施設等管理事務所	年報 松代 第35号 (2021年)
72	きしわだ自然資料館	研究報告 第7号
73	西宮市立郷土資料館	新西宮の文化財
74	西宮市立郷土資料館	御台場築造 西宮・今津の砲台
75	根津美術館	紀要 此君 第十三号 特集「根津美術館の螺鈿」
76	根津美術館	特別展 鈴木其一 夏秋溪流図屏風
77	根津美術館	新蔵品選 茶の美術
78	慶應義塾ミュージアム・コモンズ	慶應義塾ミュージアム・コモンズ 年報2号
79	松代文化施設等管理事務所	玉依比売命神社資料調査報告書
80	全国科学博物館振興財団	ミルシル No.5 特集台風～地球温暖化で変化する台風～
81	仙台市博物館調査研究報告	仙台市博物館調査研究報告 第42号
82	武田科学振興財団	杏雨 第25号
83	京都芸術センター	2021年度事業報告書
84	吹田市立博物館	秋季特別展 神崎川展
85	永森書店	目録 第43号
86	堺市博物館	堺市博物館研究報告 第41号
87	堺市博物館	和田家文書の世界 鎌倉～南北朝の和泉・河内
88	堺市博物館	企画展 古墳が変わる
89	堺市博物館	企画展 人とモノが行き交う中世・堺 ～流通の考古学～
90	堺市博物館	5世紀の倭と東アジア
91	兵庫県立美術館	HART THE HEROES
92	京都大学総合博物館	収蔵資料目録 第9号 楔形文字粘土板
93	学習院大学資料館	ミュージアム・レター 第49号
94	きょうと視覚文化振興財団	須田記念 視覚の現場 第7号
95	奈良大学博物館	小路遺跡と周辺の遺跡
96	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	粋を尽くすー近現代のきもの
97	八尾市立歴史民俗資料館	開館35周年記念特別展図録『考古資料からみた八尾の古代氏族－物部氏－』
98	大阪城天守閣	「特別展 シンボルが彩る戦国の世」
99	神戸大学 大学院海事科学研究科	海事博物館研究年報

No.	寄贈者	書名
100	神戸市立小磯記念美術館	美術館だより 第 57 号
101	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館 要覧
102	一般財団法人アジア太平洋研究所	APIR NOW 第 32 号
103	京都産業大学ギャラリー	京都産業大学ギャラリー要覧 2012 - 2022
104	神奈川県立 生命の星・地球博物	神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報 第 27 号
105	大東市立歴史民俗資料館	三好長慶と大東市の中世
106	高槻市立今城塚古代歴史館	今城塚古代歴史館第 24 回企画展図録「淀川の考古学」
107	大山崎町歴史資料館	第 30 回企画展「古絵図の魅力－地図で旅する大山崎－」
108	国立科学博物館	ミルシル No.6 高分子化学の明日を拓く
109	東京大学史料編纂所	画像史料解析センター通信
110	滋賀大学経済学部附属史料館	彦根高商創立百周年記念 100 年に向かう学知と人材育成
111	堺市立文化館	堺 アルフォンス・ミュシャ館
112	公益財団法人 阪急文化財団	阪急文化研究年報
113	京都府立丹後郷土資料館	特別展「祈りのカタチ－丹後に生きた人々の願い－」
114	池田市立歴史民俗資料館	屏風祭－池田の文化をひらく－
115	立正大学	立正大学のあゆみと石橋湛山
116	奈良大学博物館	古写真のなかの奈良－奈良大学図書館所蔵北村信昭コレクションのガラス乾板写真－
117	徳川美術館	葵 第 125 号
118	笠岡市立竹喬美術館	彩雲
119	関西学院大学博物館	美術と文芸シリーズ 新収蔵品 洋画家 大森啓助コレクション展
120	真田宝物館	真田宝物館特別展図録「真田信之」
121	西脇市岡之山美術館	第 12 回西脇市サムホール大賞展カタログ
122	西南学院大学博物館	キリスト教美術をみとく
123	国立科学博物館	ミルシル vol.16
124	三重県総合博物館	三重県総合博物館情報誌「みえんしず」39 号
125	三重県総合博物館	第 32 回企画展「三重の円空」図録
126	三重県総合博物館	三重県総合博物館年報
127	柏原市立歴史資料館	柏原の歴史 1 旧石器～弥生時代
128	柏原市立歴史資料館	史跡誕生 100 年 高井田横穴と松岡山古墳
129	柏原市立歴史資料館	聖徳太子の伝説と真実
130	柏原市立歴史資料館	山崎家文書目録 I
131	大阪くらしの今昔館	あんじゅ vol.93
132	福井県若狭歴史博物館	中世若狭の「まち」展示図録
133	福井県若狭歴史博物館	館報 令和 3 年度
134	大阪歴史博物館	近代のいんばん手－その意匠と時代背景－
135	奈良県産業振興総合センター 産業技術研究部	研究シーズ集
136	神奈川県立生命の星・地球博物館	自然科学のとびら vol.28
137	南山大学人類学博物館	南山大学人類学博物館紀要 第 41 号
138	大阪歴史博物館	大阪歴史博物館年報
139	大阪歴史博物館	錦絵 滑稽浪花名所を読み解く 特別展図録
140	大阪府立狭山池博物館	令和 4 年度特別展 図録 36『古墳時代導水施設の儀礼』
141	東京大学史料編纂所	画像史料解析センター通信
142	一般財団法人アジア太平洋研究所	APIR NOW No.33
143	帝京大学総合博物館	帝京大学大学院公衆衛生学研究科創設 10 周年記念
144	西南学院大学博物館	考古学からみた筑前・筑後のキリシタン
145	大阪公立大学	盛田嘉徳文庫目録
146	松原市民ふるさとびあプラザ	令和 4 年度特別展 江戸時代のお天気と農村生活
147	和歌山県立博物館	特別展 濱口梧陵と廣八幡宮
148	公益財団法人 益富地学会館	地学研究 vol.67
149	茨木市立文化財資料館	東奈良遺跡銅鐸鑄型発見 50 周年プレ事業「銅鐸から弥生時代社会を見直す」
150	たばこと塩の博物館	ヴィンテージライターの世界

No.	寄贈者	書名
151	東京藝術大学	第 71 回 東京藝術大学 卒業・修了作品展
152	東京大学総合研究博物館	Ouroboros 東京大学総合研究博物館ニュース第 74 号
153	同志社大学歴史資料館	同志社大学歴史資料館館報 第 25 号
154	京都府立丹後郷土資料館	特別展実施報告書 祈りのカタチ
155	国立科学博物館	ミルシル vol.16
156	大阪公立大学大学史資料室	大阪公立大学史紀要
157	佐賀大学芸術地域デザイン学部	耳で聴くアート
158	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	みる・きく・たのしむ 和歌祭
159	長野県埋蔵文化財センター	信州の遺跡
160	國學院大學博物館	國學院大學博物館研究報告
161	大阪商業大学	大阪商業大学商業史博物館紀要 第 23 号
162	龍谷大学	龍谷大学論集 第 498 号
163	大阪市立東洋陶磁美術館	韓国陶磁研究報告 15
164	大阪城天守閣	豊臣大坂城史
165	西宮市大谷記念美術館	西宮で観る至高の美術、「BACK TO 1972 50 年前の現代美術へ」
166	国立民族学博物館	特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」
167	神奈川県立生命の星・地球博物館長	自然科学のとびら vol.29
168	京都工芸繊維大学美術工芸資料館	学理と応用－京都高等工芸学校初 10 年の軌跡－



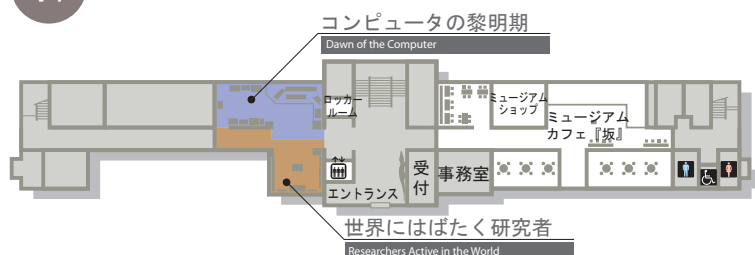
大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館



「知」を軸に人・モノ・情報が出会い、交流し、新たな「知」の創造を目指す。

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館のご案内

1F



コンピュータの黎明期

Dawn of the Computer

世界にはばたく研究者

Researchers Active in the World

コンピュータの黎明期 Dawn of the Computer

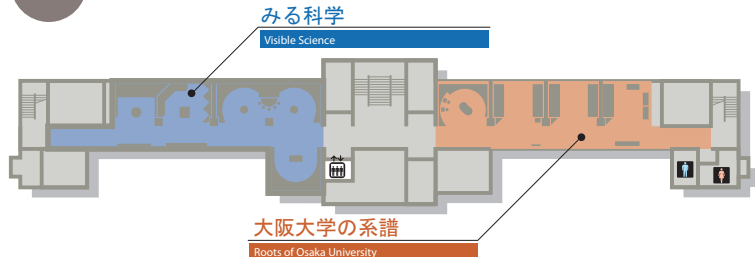
阪大では、第二次世界大戦後まもなく真空管式コンピュータの研究と試作を始めました。その当時誕生したばかりの真空管式コンピュータと、時代の先駆を担った研究者たちを紹介しています。

世界にはばたく研究者 Researchers Active in the World

ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹が、中間子論を着想した大阪大学物理学教室。当時、日本の科学の中心といわれた理学部の自由な研究環境、そこに携わりのある様々な研究者を紹介しています。

ミュージアムカフェ「坂」 Museum Café「SAKA」

2F



みる科学

Visible Science

大阪大学の系譜

Roots of Osaka University

みる科学 Visible Science

光学顕微鏡、電子顕微鏡、超高圧電子顕微鏡のしくみや、細胞より小さい分子の構造や、仕組みを明らかにするX線構造解析などの技術と、それらを利用した研究の一端を紹介しています。

大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

かつての懐徳堂、適塾といった大坂市民の学問からの流れを継承し、今日まで受け継がれてきた大阪大学。その学問や研究活動と、社会との関わりの歴史を紹介しています。

3F



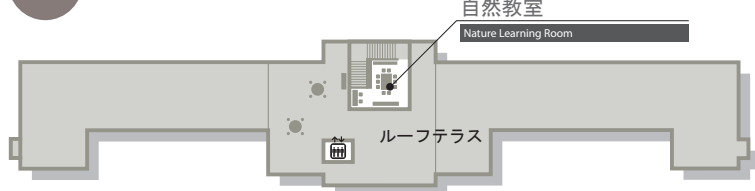
待兼山に学ぶ

Learning from Machikaneyama

待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

阪大豊中キャンパスが位置する待兼山。古代の生物や、地形の変遷から、現在の豊かな自然の中で棲息する生き物の営みまで、地域に根ざしその変化を解明する研究を紹介しています。

R F



自然教室

Nature Learning Room

ルーフテラス

自然教室&ルーフテラス Nature Learning Room

阪大キャンパスは豊中、吹田共に自然がいっぱいです。自然教室内に設置されたPCでは「阪大キャンパスに咲く花」を検索することができます。また、ルーフテラスに出れば背後の待兼山の息吹を感じることができます。

Museum of Osaka University

大阪大学総合学術博物館
年報 2022

2024 年 2 月発行

編集・発行 大阪大学総合学術博物館
〒560-0043 豊中市待兼山町1-13
印刷 株式会社 シンメイ社
〒544-0034 大阪市生野区桃谷5-11-23

表紙デザイン 辻村紀子（アトリエツジムラ）

